

斯德ニ向ヒタルモノ、如ク、驅逐艦ハ日没ノ頃二隊ニ分レ、一ハエンクウイスト司令官ニ從ヒ、一ハ主戰艦隊ノ左側ニ附隨セシカ、日没後全ク相分離シ、其ノ一二隻ハ「オレーグ」等ノ後ヲ追ウテ南西ニ逃レ、他ハ悉ク北方ニ向進セシカ如キモ、一トシテ我カ艦隊ニ對シテ襲撃ヲ企テタルモノナク、又特務艦船ハ日没後、全然浦鹽斯德ニ向フヘキ目的ヲ拋棄シタルモノ、如ク、何レモ南西方ニ航走シ、獨リ「イルツイシ」ノミハ、晝戰ニ於テ受ケタル損害大ニシテ、遠距離ノ航海ニ耐ヘサリシカ爲メ、我カ山陰道ノ陸岸ニ向ヘリ、

第三章 五月二十八日ニ於ル戰鬪

第一節 概況

我カ聯合艦隊ハ五月二十七日ノ戰ニ於テ大ニ敵艦隊ヲ撃破シ、日没ト共ニ之ヲ驅逐隊艇隊ニ譲リテ直ニ夜間行動ニ移レリ、而テ東郷聯合艦隊司令長官ハ、敵ニ先航シテ明日更ニ其ノ北走ヲ邀撃セント欲シ、翌朝ノ集合地點ヲ鬱陵島ト定メ、第一、第二戰隊ヲ率非、敵驅逐艦ノ襲撃ニ對スル警戒ヲ嚴ニシツ、同島ニ向ヒテ北上シ、自餘ノ戰隊モ亦各自之ニ向ヒテ進ミ、二十八日午前五時各戰隊ハ左ノ地點ニ達セリ、

第一戰隊

鬱陵島ノ南微西約三十海里

第二戰隊

同 右

第四戰隊(音羽、新高ヲ加フ)

鬱陵島ノ南微西約六十海里

第五戰隊

韓國冬外串ノ東方約四十三海里(北緯三十六度五分東經百三十度三十分)

第六戰隊

韓國冬外串ノ北東微北約五十二海里(北緯三十六度三十七分東經百三十度三十一分)

此ノ日天氣晴朗ニシテ前日來ノ濛氣拭フカ如ク、清澄遠望ニ適ス、然ルニ天明ニ至ルモ四顧敵影ヲ認メサルヲ以テ、東郷聯合艦隊司令長官ハ敵ノ逃路ヲ遮斷センカ爲メ、麾下巡洋艦ヲ以テ東西ニ搜索列ヲ張ラントスル際、遇、午前五時二十分後方約六十海里ニ在ル第五戰隊ヨリ、東方ニ當リ敵ノ煤煙數條ヲ認ム、トノ警報ニ接シ、尋テ同戰隊ヨリ、敵ハ戰艦二隻、海防艦二隻、「イズムルード」型巡洋艦一隻ヨリ成リ北東方ニ向進スル旨ノ報ニ接シ、第四戰隊ヨリモ亦同様ノ報ニ接シタルヲ以テ、是必ス敵ノ主力ナルヘキヲ信シ、第四戰隊ニハ常ニ敵ト觸接ヲ保チテ之ヲ監視スヘキヲ命シ、直ニ第一、第二戰隊ヲ率非針路ヲ轉シテ敵ニ向ヘリ、第四戰隊(音羽、新高ヲ加フ)及ヒ第六戰隊モ亦第五戰隊ノ警報ニ接スルヤ、敵ノ方面ニ向ヒテ轉針シ、午前八時過敵艦隊ヲ認メ、第五戰隊ト共ニ敵ノ後方ヲ押ヘツ、其ノ左側ニ竝進セリ、既ニシテ午前九時三十分頃ニ至リ、第一、第二戰隊ハ敵影ヲ發見シタルヲ以テ、戰鬪準備ヲ整ヘ敵ノ前路ヲ遮ル如ク行動シ漸ク近ツクニ及ビ、敵ハ「ニコライ」一世ヲ先頭トシ、「ボロヂノ」型戰艦一隻及ヒ海防艦二隻之ニ續航シ、他ニ「イズムルード」型巡洋艦一隻ヲ伴ヘルヲ認メ、十時三十分頃全ク其ノ前方ニ出テ、砲撃ヲ開始セリ、前日來晝夜ニ互ル戰鬪ニ喪氣疲憊セル敵ハ、再我カ優勢ナル艦隊ノ包圍ヲ受ケ、到底抵抗スル能ハサルヲ覺リタルモノ、如ク、毫モ應戰スルノ狀ナカリシカ、幾何モナク各艦ハ降服信號(萬國信號)ヲ掲ケテ進航ヲ停止シタルヲ以テ、東郷聯合艦隊司令長官ハ之ヲ容レテ戰鬪ヲ中止

シ、幕僚ヲ敵ノ旗艦ニ派遣シテ敵將ト會見セシメ、捕獲處分ニ著手セリ^(第四)、而テ降服シタル敵艦ハ、ネボガトフ司令官ノ率非ル戰艦、ニコライ一世、同、アリヨール、海防艦、アブラクシン、同、セニヤーウインノ四隻ニシテ、「イズムルード」ハ降服ニ先タチ其ノ快速ヲ利用シテ遁逃ヲ試ミ、一旦南方ニ向ヒシモ、我カ第六戰隊ニ遮ラレテ更ニ東方ニ走レリ、前夜泊谷灣ヨリ急航シタル千歲ハ、其ノ途上ニ於テ敵ノ驅逐艦「ベヅウプリヨーチヌイ」ヲ撃沈シタル後^(第三)、此ノ時恰モ來リ會シ、直ニ轉シテ「イズムルード」ヲ追ヒシモ及ハスシテ、遂ニ之ヲ北方ニ逸セリ、是ヨリ先キ第四戰隊ハ敵ニ向ヒ航進中、午前七時頃西方ニ一隻ノ敵影ヲ發見シタルヲ以テ、瓜生第二艦隊司令官ハ之カ撃滅ノ爲メ、音羽、新高ノ二艦ヲ分派セシニ、兩艦ハ午前九時頃ニ至リテ漸ク敵ニ接近シ、敵ハ巡洋艦「スウェトラナ」及ヒ驅逐艦一隻ナルヲ知り、益々之ヲ追窮シ戰鬪約一時間ノ後、午前十一時過竹邊灣沖ニ於テ全ク「スウェトラナ」ヲ撃沈シ^(第五)、尙新高ハ適來會シタル驅逐艦叢雲ト共ニ敵ノ驅逐艦ヲ追撃シテ、正午頃遂ニ竹邊灣北方ノ海岸ニ擱坐破滅セシメタリ^(第六)、該驅逐艦ハ「ブイスツルイ」ニシテ、其ノ生存乗員ハ陸岸ニ逃レテ我カ望樓員ニ降り、又「スウェトラナ」ノ乗員ハ我カ特務艦ニ收容セラレタリ、曩ニ敵ノ降服ヲ受ケタル聯合艦隊ノ大部ハ、爾後尙其ノ附近ニ漂泊シテ敵艦ノ捕獲ニ從事シツ、アル際、午後三時頃南方ヨリ敵艦「ウシヤーク」ノ來ルヲ發見シ、島村第二艦隊司令官ハ、磐手、八雲ノ二艦ヲ率非テ直ニ之ニ向ヒシニ、敵ハ忽チ針路ヲ反轉シテ南方ニ逃走セシカハ、我カ兩艦ハ速力ヲ増シテ之ヲ窮追シ、午後五時頃之ニ追及シテ、先ツ降服ヲ勸告セシモ、之ニ應セリ

ルヲ以テ、五時三十分砲撃ヲ開始シ、戰鬪約四十分ニシテ遂ニ之ヲ撃沈セリ^(第八)、又驅逐艦連及ヒ陽炎ハ、艦隊ニ合センカ爲メ集合地點タル鬱陵島ニ向ハントスル途上、午後三時過鬱陵島ノ南方ニ於テ、西方ニ航スル二隻ノ敵驅逐艦ヲ發見シ、極力之ヲ追跡シ、午後四時四十五分漸ク追及シテ戰鬪ヲ開始セシニ、敵ノ一艦ハ忽チ白旗ヲ掲ケテ降意ヲ表セシヲ以テ、連ハ直ニ之ヲ捕獲セシニ、該艦ハ「ベドウィ」ニシテ、敵ノ艦隊司令官ロジエストウエンスキー中將、及ヒ其ノ幕僚ノ移乗シ居ルヲ發見シ、其ノ乗員ト共ニ之ヲ捕虜トセリ、而テ陽炎ハ尙他ノ敵驅逐艦ヲ北東ニ追尾シテ、午後六時三十分ニ至リシモ、速力及ハスシテ遂ニ之ヲ逸セリ^(第九)、又第四戰隊及ヒ第二驅逐隊ハ、午後五時頃主力艦隊ト分レテ西方ニ向ヒ搜索中、五時五十分敵艦「ドンスコイ」ノ北走スルヲ發見シ、之ニ追尾シテ午後七時鬱陵島ノ南東方約三十海里ニ達セシ頃、恰モ好シ竹邊灣方面ヨリ來會シツ、アリシ音羽、新高竝ニ驅逐艦朝霧、白雲、吹雪等ノ一隊西方ヨリ敵ニ迫リテ砲撃ヲ開始シ、第四戰隊ト共ニ之ヲ挾撃スルノ好位置ヲ占メ、東西相須チテ日沒後迄敵ヲ猛撃シ、殆ト之ヲ撃破シ得タルモ、未タ撃沈スルニ至ラスシテ遂ニ夜ニ入りタルヲ以テ砲撃ヲ中止シ、第二驅逐隊及ヒ吹雪等ハ之ニ代リテ連續襲撃ヲ行ヘリ^(第十)、而テ襲撃ノ效果ハ不明ナリシモ、翌朝ニ至リ敵艦ハ鬱陵島ノ南東岸ニ漂ヒ遂ニ沈没シタルヲ發見セリ、

又此ノ日早朝戰場掃除ノ任務ヲ以テ出發シタル假裝巡洋艦信濃丸、臺南丸及ヒ八幡丸ハ、韓埼ノ北東約三十海里ノ地點ニ於テ、敵艦「シソイ、ウエリトキー」カ前夜ノ水雷攻撃ニ傷ツキ將ニ沈没セントスルヲ發見シ、其ノ捕獲ノ手續ヲ了セシモ、該艦ハ午前十一時頃遂ニ沈没シタリ、又驅

逐艦不知火、假裝巡洋艦佐渡丸モ、午前五時三十分對馬琴埼ノ東方約五海里ニ於テ、敵艦「ナヒー」モ「フ」沈没ニ垂ントセルニ會シ、尋テ又敵艦「モノマーフ」カ著シク傾斜シテ其ノ附近ニ來ルヲ發見シ、何レモ佐渡丸ニテ捕獲處分ヲ行ヒシモ、二艦共ニ大破シテ浸水甚シク、「ナヒー」モ「フ」ハ午前十時頃「モノマーフ」ハ午後二時三十分頃遂ニ沈没セリ、是ヨリ先キ敵ノ驅逐艦「グローム」キ「ハ」モ「ノ」マーフノ跡ヲ逐ヒテ此ノ附近ニ來リシカ、我カ艦影ヲ見ルヤ忽チ北方ニ遁逃セシヲ以テ、不知火ハ直ニ之ヲ追撃シテ蔚山沖ニ至リ、午前十二時三十分頃水雷艇第六十三號ト協力攻撃シ、敵砲ノ沈黙スルニ及ヒテ一旦之ヲ捕獲セシモ、損害大ニシテ午後零時四十三分遂ニ沈没スルニ至レリ、(第七合戦)

以上ハ五月二十八日ニ於ル戰鬪ノ概要ナリ、而テ追撃戰ノ狀態トシテ戰鬪各方面ニ分散スルヲ免レサルモノアリ、以下節ヲ追ヒテ之ヲ詳記ス、

第二節 敵主力艦隊ノ降服(第四合戦)

第一目 受降及ヒ我カ艦隊ノ戰場引上

五月二十七日沖ノ島附近ニ於ル晝戰終了スルヤ、我カ聯合艦隊ノ各戰隊ハ、所要ノ針路ヲ取リテ翌朝ノ集合地點タル鬱陵島ニ向ヒテ航進セリ、即チ第一、第二戰隊ハ第一戰隊ヲ先頭トシテ單縱列ヲ制リ、龍田、千早ヲ殿後ニ置キ、四直哨兵ヲ配置シ、速力ヲ十五海里トシ、第四戰隊ハ浪速、明石、對馬、音羽、新高、高千穂ノ順序ヲ以テ、速力ヲ十二海里トシ、又第五戰隊ハ十海里、第六戰隊ハ十四海里ノ速力ヲ以テ北上セリ、而テ第五戰隊ハ二十八日午前四時五十分、北緯三十六度

二分、東經百三十度二十八分(韓國冬外申ノ東、微南約四十海里)ノ地點ニ於テ、東方ニ當リ遙ニ數條ノ煤煙ヲ發見シタルヲ以テ、五時四分針路ヲ北東ニ變シ、尋テ速力ヲ十二海里ニ増シテ其ノ偵察ニ向ヒ、且此ノ旨ヲ各戰隊ニ報セリ、已ニシテ同三十分ニ至リ、第五戰隊ハ先ニ認メシ煤煙ハ敵艦隊ニシテ、戰艦四隻、二三等巡洋艦二隻ヨリ成リ(其ノ後幾何モナク戰艦二隻海防艦二隻イ、マールド型巡洋艦一隻ナルヲ知ル)、約十二三海里ノ速力ヲ以テ北東方ニ向ヘルヲ偵知シ、更ニ此ノ旨ヲ各方面ニ電報シ、爾後敵ト觸接ヲ保チツ、時々敵情ヲ三笠ニ報セリ、

是ヨリ先キ第一、第二戰隊ハ、午前五時三十分鬱陵島ニ近ツキタルヲ以テ、北微西ニ變針シ速力ヲ減シテ十三海里トナシ、カ、同五十分頃嚴島及ヒ浪速ヨリ敵艦隊ヲ發見シタル旨ノ電報ニ接シタルニ依リ、東郷聯合艦隊司令長官ハ前日來ノ戰況ニ照ラシ、其ノ必ス敵敗殘艦隊ノ主力ナルヲ信シ、浪速ニ命シテ敵ト觸接ヲ保持セシメ、第一、第二戰隊ヲ率非、六時五分南方ニ、七時三十分南東微東ニ變針シ、速力ヲ十五海里ニ増シ、戰鬪準備ヲ整ヘツ、敵艦隊所在方面ニ向ヘリ、爾後兩戰隊ハ屢針路ヲ變シテ敵ノ前路ヲ扼止スル如ク行動シ、八時四十分ニ至ルモ尙敵ヲ發見セサルヲ以テ、東郷聯合艦隊司令長官ハ第二戰隊ニ、全速力ヲ以テ前進シ敵ト觸接ヲ執ルヘキヲ命ス、乃チ同戰隊ハ速力ヲ十七海里ニ増シ、第一戰隊ヲ追越シテ其ノ前方ニ出テ、九時三十五分右舷艦首ニ始テ敵艦隊ヲ發見セリ、(淺間ハ前日受ケタル損所修理ノ爲メ第二戰隊ニ後レ第一戰隊ノ後尾ニ就キタリ)又第四戰隊ハ、午前四時ニ至ルモ尙未タ我カ主力艦隊ヲ認メサルヲ以テ、速力ヲ十五海里ニ増シ、集合地點ニ向ヒ急航セル途次、午前五時三十分第五戰隊ヨリ敵艦隊發見ノ電報ニ接シ、尋テ

六時三笠ヨリ、其ノ隊ハ敵ト觸接ヲ保チ之ヲ監視セヨ、トノ電命ニ接シタルヲ以テ、敵ニ接近セシカ爲メ同十分東南東ニ變針セリ、已ニシテ七時頃ニ至ルヤ、南西方ニ當リ假裝巡洋艦ノ如キモノ一隻ノ北走スルヲ發見シタルヲ以テ、瓜生第二艦隊司令官ハ、臨時其ノ指揮ニ屬セル第三艦隊ノ音羽、新高ヲシテ之カ追撃ニ向ハシメ、又麾下第四艦隊ノ明石ヲシテ其ノ前日受ケタル水線附近彈孔ノ填塞ヲ完全ニシテ後ヨリ來會セシメ、其ノ浪速、高千穂、對馬ノ三隻ヲ率非敵主力ニ向ヒテ航進セリ、同三十分第十九艇隊ノ鴻、雉ヲ合シ、午前八時敵ト觸接スルニ至リタルヲ以テ、速力ヲ十二海里ニ減シ、浪速、高千穂ハ敵ト約五六海里ヲ距テ、竝進セシメ、別ニ對馬ヲシテ自由ノ行動ヲ取ラシメ、相待チテ完全ナル觸接ヲ維持スルニ努メタリ、此ノ時敵艦隊ハネボガトフ司令官ノ旗艦「ニコライ」一世ヲ先頭トシ、「ボロヂノ」型戰艦一隻之ニ續キ、海防艦二隻更ニ之ニ續航シ、「イズムルード」型巡洋艦一隻ハ、其ノ快速力ヲ利用シテ列ノ前後ニ屢其ノ位置ヲ變シ、恰モ通信任務ニ從事セルカ如キ狀アルヲ見タリ、

又第六艦隊ハ、此ノ日午前五時第五艦隊ヨリ敵艦隊發見ノ報ニ接シタリシモ、敵ノ位置詳ナラサリシニ依リ、速力ヲ減シ暫ク後報ヲ待チシニ、六時十分ニ至リ敵ノ所在判明セシヲ以テ、直ニ速力ヲ増シ針路ヲ南東ヨリ次第ニ東方ニ轉シ、八時第五艦隊ト會合シ、共ニ敵ノ左後方ニ在リテ其ノ後尾ヲ抑ヘツ、北進セリ、

斯ノ如ク午前九時三十分頃ニハ、我カ各戰隊已ニ悉ク敵ト觸接スルニ至リ、第一、第二戰隊ハ北方ヨリ敵ノ前路ヲ遮リ、第四戰隊以下ハ南方ヨリ敵ノ退路ヲ扼スル如ク行動シ、十時十五分頃

ハ第一戰隊ハ敵艦隊ノ距離約一萬二千米突ニ近ツキシモ、敵ハ依然トシテ北東方ニ航進シ、「イズムルード」ハ嚮導艦「ニコライ」一世ノ前方ニ進出シタルヲ以テ、其ノ水雷發射ヲ慮リ、第一戰隊ハ稍左舷ニ回頭シテ之ヲ避ケシニ、同艦ハ俄然針路ヲ轉シ、快速力ヲ以テ南東方ニ遁走セリ、已ニシテ同三十分頃ニ至リ、第一、第二戰隊ハ全ク敵ノ前方ニ出テ、同三十四分「ニコライ」一世ノ距離約八千米突ニ迫ルヤ、春日先ッ砲火ヲ開キ、第一、第二戰隊ノ諸艦モ亦之ニ踵キテ砲撃ヲ開始セシニ、敵ハ我カ優勢ナル艦隊ニ包圍セラレ、脱出ノ到底不可能ニシテ抵抗ノ不必要ナルヲ覺リシモノ、如ク、當ニ毫モ應戰セサルノミナラス、亦其ノ軍艦旗ヲ半降シ、萬國船舶信號ヲ以テ降服ノ意ヲ表セシニ依リ、東郷聯合艦隊司令官ハ之ヲ容レ、各艦ニ命シテ戰闘ヲ中止セシメ、午前十一時三十分我カ各戰隊ハ、竹島（リヤンコ）ノ南南西約十八海里ニ於テ降服敵艦隊ヲ包圍シテ停止漂泊シ、尋テ第二驅逐隊（雷缺）第三驅逐隊（連缺）及ヒ有明等モ亦來會セリ、是ヨリ先キ「イズムルード」ノ隊ヲ離レテ單獨遁走スルヤ、第六戰隊ハ直ニ之ヲ追ヒシモ速力及ハス、距離漸次遠サカリ、十時三十分頃ニ至リテハ敵ノ艦影既ニ水線下ニ沒シ、僅ニ其ノ煤煙ヲ望ムノミトナリシカ、此ノ時出羽第一艦隊司令官ノ旗艦千歲南方ヨリ急航シ來リ、「イズムルード」ノ追撃ニ向ヒシヲ以テ、東郷第三艦隊司令官ハ秋津洲ヲシテ千歲ト共ニ「イズムルード」ノ追撃ヲ續航セシメ、正午他ノ三艦ヲ率非主力艦隊ニ向ヒ引還セリ、

東郷聯合艦隊司令官ハ、敵艦隊ノ降服ヲ容ル、ヤ、午前十一時五十三分受降ノ爲メ、參謀海軍中佐秋山眞之ヲシテ、三笠分隊長海軍大尉山本信次郎ヲ通譯トシ、敵ノ旗艦「ニコライ」一世ニ到

リ、其ノ司令官ネボガトフ少將ト會見シ、機宜受降ノ手續ヲ處理セシメ、且成ルヘク速ニ敵將ヲ伴ヒ歸ルヘキヲ命セリ、是ニ於テ秋山參謀及ヒ山本海軍大尉ハ、水雷艇雉ニ乗シ、降服敵艦ノ狀態ヲ觀察シツ、「ニコライ」一世ニ向ヒシニ、降服艦ハ戰艦「ニコライ」一世、同「アリヨール」裝甲海防艦「アブラクシン」同「セニヤール」ニシテ、各艦共多少ノ損害ヲ蒙ラサルナク、殊ニ「アリヨール」ノ如キハ、外觀頗ル慘烈ヲ極メ、再戰闘ニ耐ヘ得ヘシトモ思ハレス、又各艦ノ乗員ハ何レモ前甲板ニ集合シ、信號書、祕密書類等ヲ海中ニ投棄シ、降服ノ意志明ナルヲ見タリ、既ニシテ「ニコライ」一世ニ著スルヤ、秋山參謀等ハ艦内ヨリ垂下シタル索條ニ縋リテ上艦シ、敵參謀ニ導カレテ將官室ニ到リシニ、ネボガトフ少將ハ戰塵ニ塗レタル汚服ヲ著用シタル儘出テ來リ、慇懃ニ應接セリ、秋山參謀ハ山本大尉ヲ介シ、ネボガトフ少將ニ向ヒ左ノ如ク申告セリ、

一、東郷大將ハ貴下ト共ニ茲ニ慘烈ナル海戰ノ終結ヲ告ケタルヲ喜ヒ且名譽ノ降服トシテ貴艦隊ノ降ヲ受クル爲メ小官ヲ送レリ就テハ貴下等ノ帶劔ハ其ノ儘ニ帶ヒラレタシ
一、已ニ受降ノ上ハ貴艦隊ノ艦船兵器等一切ノ現狀ヲ維持スヘキ事ヲ直ニ各艦ニ嚴達セラレタシ若シ故意ニ之ヲ毀損スルモノアルトキハ我カ軍法ヲ以テ處分スヘシ

一、右ノ次第故降服委細ノ條件ニ就テハ東郷大將貴下ニ會見シテ協定セラルヘキヲ以テ可成速ニ貴下親ヲ我カ三笠ニ來艦アラントヲ望ム

之ニ對シネボガトフ少將ハ、前日來ノ海戰常ニ利アラス、此ノ殘艦隊モ亦既ニ戰闘ノ力ナキニ至リシヲ以テ、凡テ貴軍ノ命ニ從フヘシト答ヘ、又此ノ意志ヲ各艦ニ傳フル爲メ、暫時ノ猶豫ヲ

請ヒタルヲ以テ之ヲ容レシニ、同少將及ヒ參謀ハ室ヲ去リテ更ニ士官室ニ到リ、幕僚ヲ集メテ何事ヲカ議シタルモノ、如シ、斯テ約三十分ノ後ネボガトフ少將ハ再將官室ニ來リ、各艦ヘノ傳達了リタルコト、端舟破損セルカ爲メ我カ水雷艇ニ便乗シタキコト、此ノ日ノ戰闘ニ於ル戰死者ヲ水葬シ、且被服ヲ更ムル爲メ、尙少時ノ猶豫ヲ得タキコト等ヲ請ヒタルヲ以テ、我ハ之ヲ許諾シ、且前日來ノ戰況ヲ問ヒシニ「ボロヂノ」「アレキサンドル」三世及ヒ「オスラービヤ」ノ沈没セシコト、ロジエストウエンスキー司令長官ノ旗艦ハ「スウォーロフ」ナリシコト等ヲ聞知スルコトヲ得タリ、已ニシテネボガトフ少將ハ、幕僚ト共ニ禮服ヲ著用シテ上甲板ニ出テ、總員ヲ後甲板ニ集メ、懇ニ降服ノ已ムヲ得サル所以ヲ訓諭シテ曰ク、予ハ年齡既ニ六十、何爲レソ復餘命ヲ惜シマン、惜シム所ハ偏ニ諸子ノ身上ニ在リ、諸子ハ尙春秋ニ富ム、此ノ際須ラク耻ヲ忍ヒ、將來祖國ノ爲メ盡ス所アルヘシ、若シ無謀ニモ此ノ數分間ニ憤死センカ、誰カ能ク露國將來ノ海軍ヲ興復スル者ソ、加之諸子ノ身後ニハ數千ノ孤兒ヲ殘スニ至ラン、降服ノ責ハ予之ヲ一身ニ負ハント、言々悲痛、淚聲ヲ吞ム、其ノ訓示終ルヤ、同少將以下幕僚一同我カ水雷艇ニ乗シテ、午後一時三十七分三笠ニ來艦セリ、東郷司令長官ハ之ヲ將官室ニ延イテ、彼我兩將及ヒ幕僚相會見シ、淺間艦長海軍大佐八代六郎通譯トナリ、降服ニ關スル條件ヲ左ノ如ク協定セリ、

一、降服各艦ノ士官以上ハ帶劔竝ニ其ノ私有品及ヒ金錢ヲ保有スルヲ得ルコト又乗員ハ其ノ私有品及ヒ金錢ヲ日本到着後受領シ得ルコト

一、降服各艦ノ船體兵器物品ハ故意ノ損害ヲ加ヘス又各艦ニ約三分ノ二ノ乗員ヲ殘シ捕獲

回航員ト共ニ回航ニ從事スルコト

一、東郷海軍大將ハ、ネボガトフ少將カ露國皇帝ニ戰況報告書竝ニ死傷者及ヒ捕虜トナリタル者ノ名簿ヲ送呈スルノ認許ヲ得シムルコトニ就キ盡力スルコト

一、東郷海軍大將ハ、捕虜士官以上カ宣誓ノ上其ノ故國ニ歸還スルノ認許ヲ得シムルコトニ就キ盡力スルコト

右終ルヤ、東郷聯合艦隊司令長官ハ正式ニ敵ノ降服ヲ受ケ、爾後我カ命令ニ服従スヘキヲ命シ、然ル後個人ノ資格ヲ以テ互ニ三鞭酒ノ杯ヲ舉ケ、悲惨ナル戰鬪ノ終リタルヲ祝シ、ネボガトフ少將トノ間ニ二三ノ談話ヲ交換シ、少焉アリテ同少將以下退艦セリ、是ニ於テ東郷聯合艦隊司令長官ハ、午後二時五十分降服敵艦ノ捕獲處分ヲ開始セシニ、敵ハ最早反抗ノ形勢ナキヲ以テ、午後三時四十五分第五、第六戰隊ニ向ヒ、尾崎灣ニ歸リ海峽ノ警戒ニ任スヘキヲ命シ、第一、第二、第四戰隊及ヒ驅逐艦、水雷艇ヲ率非テ降服艦ノ捕獲警衛ニ從事中、午後三時頃南方ニ當リ「ウシヤークコフ」ノ單獨北上シ來リタルヲ發見シ、之カ擊滅ノ爲メ磐手、八雲ノ二艦ヲ分派シ、尋テ午後四時四十分「ナヒーモフ」型ノ船影ヲ北西ニ認メ、偵察ノ爲メ第四戰隊及ヒ第二驅逐隊ヲ派遣セシニ、午後五時五十分頃第四戰隊ヨリ、西方ニ「ドンスコイ」ヲ發見シタル旨ノ報ニ接シタルヲ以テ、應援ノ爲メ更ニ淺間ヲ急派セリ、

朝鮮海峽警戒ノ命ヲ受ケタル第五戰隊及ヒ第六戰隊ハ、更ニ片岡第三艦隊司令長官ヨリ、第五戰隊ハ西水道ヲ經、第六戰隊ハ東水道ヲ經テ、尾崎ニ回航スヘキ命ヲ受ケ、共ニ朝鮮海峽ニ向ヒ

シカ、午後六時頃片岡司令長官ハ、西北西ニ當リ煤煙見ユ、トノ情報ニ接セシヲ以テ、第六戰隊ニ向ヒ、之カ偵察ヲ命セリ、因テ第六戰隊ハ既ニ復舊シタル合戰準備ヲ再整シ、十五海里ノ速力ヲ以テ鬱陵島方面ニ向進スルコト約一時間ニシテ、前方ニ方リ北方ニ進ムカ如キ二條ノ煤煙ヲ發見シタルヲ以テ、其ノ前路ヲ遮斷スル如ク進航中、八重山ヨリノ報ニ依リ、「ドンスコイ」及ヒ海防艦一隻北方ニ航シ、第四戰隊之ト觸接セルヲ知り、尋テ鬱陵島方面ニ方リ、頻ニ砲聲ノ轟クヲ聞キ、益々急航セシモ、夜ニ入りタルカ爲メ竟ニ戰鬪ニ加ハルコトヲ得ス、午後八時頃ニ至リ砲聲全ク止ミ、且無線電信ハ混信ノ爲メ敵味方ノ位置ヲ知ルコト能ハス、已ムヲ得ス曩ニ認メタル砲火ノ方向ニ進ミタルモ、唯鬱陵島ノ東端ニ方リ數個ノ燈光ヲ認ムルノミニシテ、何等ノ異狀ナク、午後十一時頃同島ノ北東約二十海里ノ地ニ至ルニ及ヒ、始テ「ドンスコイ」ニ對スル第四戰隊ノ戰況、竝ニ同戰隊ハ追撃ヲ止メ根據地ニ歸航ストノ報ニ接シ、第六戰隊モ亦尾崎ニ向ヘリ、

又曩ニ「イズムルド」ヲ追躡セシ千歲ハ、到底敵ニ追及スルコト能ハサルヲ覺リ、午後二時之ヲ棄テ、主力艦隊所在地ニ向ヒテ引返シ、秋津洲ヲシテ列ヲ解キ第六戰隊ニ復歸セシメ、午後五時第一、第二戰隊ニ合シ、同七時三十分東郷聯合艦隊司令長官ノ命ニ依リ單獨尾崎ニ向ヘリ、東郷聯合艦隊司令長官ハ前日來ノ戰鬪ニ依リ、敵主力艦隊ノ大部ヲ擊沈若クハ捕獲シ、尙一部ノ殘存スルモノアルカ如キモ、降服艦捕獲ニ多時ヲ費シタル爲メ、皆ニ其ノ追撃ノ機ヲ逸シタルノミナラス、亦捕獲艦回航ノ爲メ有力ナル護衛艦ヲ必要トスルヲ以テ、之ヲ斷念シ、捕獲艦ヲ

率非テ佐世保ニ回航スルコトニ決定シ、第二戰隊ニハ捕獲艦「アブラクシン」及ヒ「セニヤーツ
非ン」回航準備整ヒ次第、之ヲ護衛シテ佐世保ニ到ルヘキヲ訓令シ、第一戰隊ヲシテ午後七時
三十分捕獲艦「ニコライ」世及ヒ「アリヨール」ヲ率非テ、佐世保ニ向ヒ發航セシメタリ、

第二目 降服當時ニ於ル敵狀

ネボガトフ司令官ハ二十七日ノ劇戰ニ於テ、ロジエストウエンスキー司令長官ノ生死所在ヲ
知ルコト能ハス、是ノ日夕刻ニ至リ驅逐艦「ベツウプリョーチヌイ」ヨリ、浦鹽斯德ニ赴ケ、トノ司
令長官ノ命令ヲ受ケタルヲ以テ、猛烈ナル我カ水雷攻撃ヲ冒シツ、針路ヲ北二十三度東ニ定
メ、十三四海里ノ速力ヲ以テ、一意浦鹽斯德ニ向ヒ航進セシニ、二十八日朝ニ至リ、其ノ麾下ニ在
ル軍艦ハ戰艦「ニコライ」世^{（旗）}、同「アリヨール」、海防艦「ゲネラル、アドミラル、アブラクシン」、
同「アドミラル、ウシヤークフ」、巡洋艦「イズムルード」ノ五隻ノミニシテ、其ノ他ノ軍艦ハ全ク
分離シテ視界ノ内ニ在ラサルヲ知レリ、已ニシテ午前五時過ニ至リ、數條ノ煤煙西方ノ水際ニ
懸クヲ認メ、ネボガトフ司令官ハ「イズムルード」ヲ派シテ之ヲ偵察セシメシニ、我カ第五戰隊ナ
ルコトヲ知リ、乃チ各艦ニ戰鬪準備ヲ命シ、尙前針路ヲ維持シテ航進中、遂次我カ第四、第六戰隊
ヲ發見シ、午前十時頃ニハ遂ニ我カ第一、第二戰隊ノ單縱陣ヲ制リ、陣形堂々トシテ針路ノ前方
ヲ扼セルヲ認メタリ、ネボガトフ司令官ハ前日來ノ劇戰ニ因リ、自國艦隊ノ破壞殘缺シタルニ
反シ、我カ艦隊ノ何等ノ損害ヲ蒙ルコトナク、艦容整齊トシテ現レタルヲ見、今ヤ敗餘ノ艦隊ヲ
率非テ極力奮戰スルモ、徒ニ部下將卒ノ生命ヲ失フノミニシテ、戰爭ノ大局ニ何等ノ利益ナキ

ヲ覺リ、寧ロ降服シテ部下二千五百ノ生命ヲ救フニ若カスト爲シ、我カ艦隊ノ砲撃ヲ受クルニ
及ヒ、旗艦ノ檣頭ニ降服ヲ萬國信號ヲ掲ケ、同時ニ戰鬪旗及ヒ軍艦旗ヲ降下シテ、我カ國旗ヲ掲
揚セリ、後續諸艦ニ於テハ「ニコライ」世ノ信號ヲ見ルヤ、或ハ艦長ニ勸メテ降服ニ反對スヘシ
ト唱フルモノアリ、或ハ進ミテ戰鬪ヲ開始スヘシト主張スルモノアリ、其ノ他或ハ自ラ爆沈ス
ヘシト云ヒ、或ハ「キングストン」弁ヲ開クヘシト云ヒ、稍紛擾ヲ來シ、モ、遂ニ孰レモ旗艦ニ倣
ヒテ同一信號ヲ掲ケシカ、獨リ「イズムルード」ノミハ、一度信號ヲ掲ケタル後、直ニ之ヲ降下シ、
其ノ快速力ヲ賴ミ、驀然東方ニ向ヒテ逃走セリ、斯ノ如ク敵艦乗員中ニハ降服ニ反對シ、飽迄決
戰セント欲スルノ士ナキニアラサリシモ、其ノ大部分ハ戰鬪ヲ以テ無益ノ抵抗ト認メタルモ
ノ、如ク、露國ノ一將校ハ當時ニ於ル露艦隊乗員志氣ノ狀態ニ關シテ左ノ如ク陳ヘタリ、

二十七日午後二時過ヨリ夜間ニ互ル惡戰苦闘モ未タ以テ興奮セル我カ乗員ノ志氣ヲ沮喪セ
シムルニ至ラス衆皆天明ヲ待チテ戰鬪ノ再興ヲ期シ專ラ之カ準備ニ努メ諸般ノ命令ノ如キ
モ悉ク此ノ目的ヲ以テ發セラレタリ然ルニ翌朝ニ至リ何等ノ損傷ヲ受ケタル狀ナキ敵ノ大
艦二十七隻ヨリ成ル鐵壁ヲ以テ包圍セラル、ニ及ヒテハ將卒共ニ總テノ希望ヲ絶チ回航中
ニ慘澹嘗メ盡シタル辛苦ノ甲斐ナカリシヲ憾ミ頓足シテ萬事窮スト絶叫セリ嗚呼無缺ノ全
艦隊ヲ提ケテ我カ此ノ敗殘艦隊ヲ圍繞セル敵ノ壯觀ヲ目撃シテハ何人カ茫然トシテ心魂ノ
體軀ヨリ離脱シタルカ如キノ感ヲ起サ、ルモノソ以テ將校士卒ノ別ナク衆皆意氣沮喪ノ狀
態ニ在リシヲ知ルニ足ルヘシ是其ノ降服ノ瞬間ニ在リテハ各人各自ノ機智ト勇氣トヲ現ス

ノ餘力ヲ存セサリシ所以ナリ

斯ノ如ク露國艦隊ハ將卒ノ志氣沮喪セルノミナラス、其ノ船體、兵器モ亦甚シク不良ニ陥リ、殊ニ「アリヨール」ノ外ハ何レモ舊式軍艦ニシテ、「ニコライ」一世ニ搭載セル十二尹砲ノ如キハ、艦長僅ニ三十口徑ニシテ、其ノ九尹及ヒ六尹砲モ亦三十五口徑ニ過キサルヲ以テ、我カ艦隊ノ諸砲ニ比スレハ其ノ射程頗ル短ク、且殘存彈藥モ亦甚タ多カラス、而テ新式戰艦ノ「アリヨール」ニ至リテハ、前日ノ戰鬪ニ於テ備砲及ヒ船體ニ大損害ヲ蒙リ、到底我カ優勢ナル艦隊ニ對シ抗戰ノ力ナカリシモノ、如シ、降服當時ニ於ル各艦ノ現狀大要左ノ如シ、

(一)戰艦「ニコライ」一世

本艦ハネボガトフ司令官ノ旗艦トシテ第三戰艦隊ノ先頭ニ占位シ、第二戰艦隊ニ續航シテ前日ノ戰鬪ニ參與セシカ、其ノ位置列ノ後方ニ在リシカ爲メ、比較的我カ集彈ニ浴スルコト尠カリシト雖モ、尙左舷側ニハ約十個ノ彈丸ヲ受ケタリ、即チ其ノ主ナルモノヲ舉クレハ、十二尹彈一個ハ艦首附近ノ水面ヲ打チテ炸裂シ、舷側鐵ニ直徑約三吋大ノ無數ノ彈孔ヲ穿チ、八尹彈及ヒ六尹彈各一個ハ、「ホーズホール」ノ後方水線附近ニ命中シテ舷側ヲ貫キ、航海中下甲板ニ浸水ヲ來シ、十二尹彈一個ハ前部九尹砲門ニ中リテ炸裂シ、彈片四散シテ前艦橋前部砲塔端母等ヲ傷ツケ、六尹以上ト思ハル、砲彈一個ハ前部煙突ノ後面ヲ貫キテ炸裂シ、煙突ニ多數ノ彈孔ヲ穿チ、約八尹大ノ彈丸一個ハ左舷艦載水雷艇上ニ落下シテ炸裂シ、其ノ破片飛テ後部煙突大櫓及ヒ端母等ヲ傷ツケ、徑彈不明ノ一彈ハ前部砲塔

左砲ニ命中シテ、砲身ニ罅裂ヲ生セシメ、其ノ破片及ヒ震動ニ依リ前甲板ヲ破損セリ、又備砲ハ我カ捕獲員ノ乗艦セシ際ニハ、其ノ要具ノ如キハ敵自ラ破壊シタルヲ以テ、精密ニ之ヲ知ル能ハスト雖モ、二門ノ十二尹砲ノ内、一門ハ我カ彈丸ノ爲メ罅裂ヲ生シテ使用ニ適セサルモ、他ノ一門ハ完全ノ狀態ニ在リ、九尹砲四門ハ照準器其ノ他ノ附屬具ヲ有セサルモ、砲身ハ其ノ中一門多數彈片ノ痕跡ヲ有スルノミニシテ、他ハ何等ノ損傷ナク、六尹砲八門亦同様ノ狀態ニ在リ、而テ二十八日朝ニ於ル彈藥ノ現狀左ノ如クナリシト云フ、

彈種	本國ニテ		彈種	本國ニテ	
	搭載數	發射數		搭載數	發射數
十二尹徹甲彈	六〇	一八	九尹通常榴彈	二五〇	二三八
同通常榴彈	七二	七二	同片鐵榴彈	六〇	一二
同片鐵榴彈	一二	四	六尹徹甲彈	五七八	三一八
九尹徹甲彈	一〇〇	二三	同通常榴彈	八八二	七七四
備考 本表ハ軍法會議ノ法廷ニ於テ「ニコライ」一世砲術長ノ陳述ニ係ルモノナリ					
				七七四	二三八

(二)戰艦「アリヨール」

本艦ハ第一戰艦隊ノ殿艦トシテロジエストウエンスキー司令長官ノ直率ニ屬シ、二十七日開戰ノ當初ヨリ日沒ニ至ル迄、我カ主力艦隊ニ對シテ奮闘シタルヲ以テ、其ノ損害モ亦甚シク、即チ左舷側ニハ、十二尹砲彈九個、八尹砲彈五個、六尹砲彈十三個、其ノ他彈徑不明ノ彈丸

數個ヲ被リ、其ノ彈孔ノ大ナルモノハ縱九尺四寸横一丈三尺ニ達シ、右舷側ニハ、十二尹砲彈三個、八尹砲彈二個、六尹砲彈七個、及ヒ小口徑砲彈數個ヲ受ケ、其ノ他兩舷側共ニ、水面炸裂彈ノ破片ニ因リ無數ノ小孔ヲ穿タレ、司令塔ニハ六尹砲彈二個ヲ受ケ、其ノ煙突破レ、甲板碎ケタル艦内ノ慘狀ハ實ニ言語ニ絶シ、艦長ハ重傷ヲ負ヒ（舞鶴同航中死シタリ）、其ノ他乗員ノ死傷甚タ多シ、又主ナル備砲ノ狀況ハ、十二尹砲（口徑四十）四門中前部砲塔ノ左砲ハ、砲口ヨリ約二米突ノ處ニ於テ切斷シ、他ノ三門ハ砲身ニ若干ノ小彈痕アルモ、使用ニ耐ヘ得ルモノ、如ク、六個ノ六尹砲塔（連裝ス）ノ中、左舷前部及ヒ右舷中部ノモノハ、通信機其ノ他附屬具ニ損害ヲ有シ、左舷後部砲塔ハ、左右ノ砲身共多數ノ彈痕ヲ有スルモ、其ノ他ノ諸砲ハ著シキ損害ナキモノニ似タリ、

（三）海防艦「ダネラル、アドミラル、アブラクシン」

本艦ハネボガトフ司令官ノ引率セシ第三戰艦隊ノ二番艦トシテ、二十七日ノ戰闘中常ニ「ニコライ」一世ニ續航シ、我カ砲彈ノ爲メニ被リタル損害ノ主ナルモノハ、一彈、後部砲塔左砲ニ近ク命中爆發シテ同砲身ヲ傷ツケ、且甲板ヲ破壊シタルト、一彈ハ前艦橋下左舷側ヲ貫通シタルトニシテ、其ノ他後橋「ガーフ」、無線電信用橫架線及ヒ前橋「ステイ」等ヲ破損セシモ損害大ナラス、備砲ニ至リテハ、戰闘ノ爲メ被リタル損害ハ一モ無カリシモノ、如シ、而テ降服當時ニ於ル殘存彈藥數ハ、十尹砲ニ在リテハ通常榴彈四十發乃至五十發、徹甲榴彈百二十發、十二吋砲ニ在リテハ一門ニツキ通常榴彈九發乃至十發ナリシト云フ、

（四）海防艦「アドミラル、セニヤール、ウ井ン」

本艦ハ第三戰艦隊ノ三番艦トシテ「アブラクシン」ノ後方ニ在リテ戰闘ニ參與セシモ、僅ニ前艦橋後方最上甲板ニ彈片ノ穿孔ヲシキモノ一個、及ヒ左舷側「ボートダビットヘッド」ニ一個ノ彈痕ヲ留ムルノミニシテ、其ノ他船體、兵器共ニ我カ砲彈ニ基因スル損害ヲ認メス、降服當時ニ於ル殘存彈藥ハ、十尹砲通常榴彈三十四發、十二吋砲彈百八十發ナリシト云フ、以上ハ降服當時ニ於ル各艦ノ狀態ナリト雖モ、或軍艦ニ於テハ我カ捕獲員ノ乗艦スルニ先タチ、敵自ラ故意ニ破壊シタルモノ頗ル多ク、六尹以下ノ大砲ノ如キハ、其ノ尾栓及ヒ附屬具等ヲ過半破壊若クハ海中ニ投棄セリ（各艦ノ詳狀ニ關シテハ備考文書參照）

第三目 降服艦ノ捕獲

敵ノ司令官ネボガトフ少將ノ「ニコライ」一世外三艦ヲ率非テ降服スルヤ、東郷聯合艦隊司令長官ハ之ヲ容ル、ト共ニ、降服敵艦ヲ捕獲セシカ爲メ直ニ其ノ部署ヲ定メ、戰艦「ニコライ」一世及ヒ同「アリョール」ハ第一戰隊ニテ捕獲シ、海防艦「アブラクシン」及ヒ同「セニヤール、ウ井ン」ハ第二戰隊ニテ捕獲セシムルコト、シ、此ノ旨ヲ上村第二艦隊司令長官以下各艦長ニ訓令シ、且第一、第二戰隊ヨリ派遣スヘキ捕獲人員ヲ左ノ如ク規定セリ、

副	「ニコライ」一世		「アリョール」		「アブラクシン」		「セニヤール、ウ井ン」	
	數	島	富	士	朝	日	春	日
長	一				一			一

看	中	機	信	水	機	信	兵	上	上	中	中	大	大	少
護	少	關	號	兵	關	號	曹	等	等	少	尉	尉	尉	佐
		二〇	二	四〇	一〇	一	二〇	一	一	二	二	一	一	一
		二〇	二	四〇	一〇	一	二〇	一	一	二	二	一	一	一
		二〇	二	四〇	一〇	一	二〇	一	一	二	二	一	一	一
		二〇	二	四〇	一〇	一	二〇	一	一	二	二	一	一	一
一	一	一三	二	二六	四	一	八	一	一	一	一	一	一	一
		一四	一	二六	三		六	一		一	一	一	一	一
		一三	一	二八	一		六			一	一	一	一	一
		一二	一	二六	五	一	七	二				一	一	一
		一四	一	七	四		七		二		一			一
一	一	一四	二	二七						一	一	一	一	一

午後二時五十五分東郷司令長官ハ、捕獲員ヲ指定ノ艦ニ送ルヘキ旨ノ命令ヲ下シ「ニコライ」一世捕獲指揮官敷島副長海軍中佐山田猶之助、「アリヨール」捕獲指揮官朝日副長海軍中佐東郷

吉太郎、「アブラクシン」捕獲指揮官 出雲副長海軍中佐上村經吉、「セニヤージュ非ン」捕獲指揮官 常磐副長海軍中佐上村翁輔ハ、捕獲員ヲ率非テ其々指定ノ軍艦ニ到リ、捕獲處分ニ著手セリ、是ヨリ先キ上村第二艦隊司令長官ハ、第二戰隊ニテ「アブラクシン」及ヒ「セニヤージュ非ン」ヲ捕獲スヘキ命ヲ受クルヤ、「アブラクシン」ニ對シテハ第一小隊ヨリ、「セニヤージュ非ン」ニ對シテハ第二小隊ヨリ、捕獲員ヲ派遣セシムルコトニ決定セシニ、偶ニ時五十分頃ニ至リ、敵艦「ウシヤークフ」現出シ、第二小隊ハ之カ撃滅ニ向フコト、ナリ、更ニ第一小隊ヨリ「セニヤージュ非ン」ノ捕獲員ヲ編成シタルヲ以テ、稍時間ヲ費シ、爲メニ「セニヤージュ非ン」捕獲員ハ、午後六時三十分頃漸ク同艦ニ著スルヲ得タリ、各艦捕獲ノ狀況左ノ如シ、

(一)「イムペラートル、ニコライ」一世ノ捕獲處分

「イムベーター」トル、ニコライ」一世ノ捕獲指揮官敷島副長山田海軍中佐ハ、敷島、富士ノ人員ヲ以テ編成シタル捕獲員ヲ率非、午後四時五分敷島ヲ發シテ「ニコライ」一世ニ到リシニ、同艦副長出テ、舷門ニ迎ヘ、艦長ハ頭部負傷ノ爲メ禮ヲ執ル能ハサル旨ヲ告ケタルニ依リ、副長ヲシテ同艦引渡ノ手續ヲ履行セシメタリ、時ニネボガトフ少將ハ三笠ヨリ歸リテ、各艦艦長及ヒ幕僚等ヲ將官室ニ集メテ訓示ヲ與ヘ、已ニ終リテ訣別ノ酒宴中ナリキ、山田指揮官ハ先ツ俘虜總員ヲ上甲板ニ出シ、士官以上ハ後甲板ニ、下士卒ハ前甲板ニ集合整列セシメテ、其ノ員數ヲ調査シ（司令官一幕僚九艦長一士官以上二六）、尋テ祕密書類諸帳簿等ノ提出ヲ（准士官ナシ下士卒七一二幕僚從卒九）命セシモ、既ニ海中ニ投棄シタル旨ヲ答ヘ、僅ニ船體圖、旗艦用海圖及ヒ雜書數十冊ヲ押收

シタルニ過キス、尋テ彈藥庫、衣糧庫、酒庫、諸倉庫其ノ他諸室ノ鍵ヲ受領シ、金櫃ヲ檢セシニ、全ク空虛ニシテ一錢ヲモ存セス(俘虜副長及ヒ主計長ノ陳述ニ依レハ會戰前病院船ニ移レタリト稱スレトモ戰後軍法會議ニ於ル陳述ニハ士官以上ニ分配セリトアリ後者近シ)、終リテ山田指揮官ハ、海軍大機關士野田清太郎ヲシテ俘虜機關長ヨリ機關部ノ引渡ヲ受ケ、成ルヘク迅速ニ運轉ノ用意ヲ整ヘシメ、親ラ俘虜副長ヲ伴ヒテ艦内ヲ巡檢セシニ、其ノ不潔亂雜實ニ名狀スヘカラス、諸倉庫ハ開放ノ儘監視者ナキ爲メ、下士卒ハ或ハ酒類ヲ暴飲シ、或ハ糧食ヲ亂食シ、泥醉者ハ累ヤトシテ甲板各所ニ横タハリ、被服庫ヨリハ新シキ外套軍服等ヲ盗出シテ之ヲ著用スルモノアル等、殆ト軍規風規ノ存在ヲ認メス、恬トシテ降服ヲ耻チサルノ狀寧ロ慙ムニ堪ヘタルモノアリ、是ニ於テ砲臺、彈藥庫、衣糧庫、酒庫其ノ他ノ諸倉庫竝ニ各要所ニハ、哨兵トシテ水兵全部ヲ配置シ、俘虜司令官、幕僚(從卒共)艦長及ヒ下士卒九十一名ヲ富士ニ、下士卒百六十名ヲ敷島ニ送り、艦内異狀ナキヲ認メテ、我カ水兵半數ヲ後甲板ニ整列セシメ、信號兵ハ君カ代ノ譜ヲ奏シテ我カ軍艦旗竝ニ長旒ヲ掲揚セリ、時ニ午後七時三十分ナリ、右終リテ俘虜ヲ解散シ、其ノ士官ハ士官室ニ、下士卒ハ上中甲板ニ居所ヲ指定シ、俘虜副長ノ請求アルトキ士官ノ從卒トノ外、下甲板以下ニ降ルヲ禁止セリ、

又野田大機關士ハ俘虜機關長ヨリ機關部ノ現狀ニ關シ、(一)航海ニ必要ナル機關ノ運轉ニ差支ナキコト、(二)石炭ハ現量五百噸ヲ有スルコト、(三)給水ノ現量ハ二百五十噸ナルコト、(四)油ハ多量ニ存スルコト等ノ報告ヲ得、直ニ機關部員ヲシテ各部署ニ就カシメ、午

後七時三十分試運轉ヲ行ヒ良好ノ成績ヲ得タリ、

(二)「アリヨール」ノ捕獲處分

「アリヨール」捕獲指揮官朝日副長東郷海軍中佐ハ、朝日、春日ヨリ派出シタル捕獲員ヲ率非テ、午後四時頃「アリヨール」ニ乗艦シ、航海科、砲術科、水雷科、船體部及ヒ機關部ニ各分擔ヲ定メテ授受ニ從事セシメ、先ツ第一ニ艦ノ保安ト機關ノ運轉トヲ圖ルカ爲メ、彈藥、水雷等ノ危險倉庫ヲ檢シテ哨兵ヲ附シ、各所ニ散在セル小銃及ヒ彈藥庫等ヲ處置シ、各要所ニ衛兵ヲ配置シ、機關部員ヲシテ各海水口ヲ檢視セシメタリ、俘虜ハ之ヲ朝日及ヒ春日ニ移スニ努メシモ、彼等ノ退艦準備ニ時ヲ要シタルト、端舟ノ數少キト、運搬距離ノ遠キト、波浪ノ高カリシトノ爲メ、日没前迄ニ朝日ニ將校以下三百二十八名、春日ニ下士卒百五十名ヲ移乗セシメタルニ過キスシテ、他ノ三百十餘名ハ之ヲ本艦ニ殘置セリ、而テ艦内調査ノ結果、航海科ニ屬スル諸測器、及ヒ砲術科ニ屬スル諸砲具等ヲ破壊投棄シタル外、船體各部ニ異狀ナキモ、中下甲板ニハ海水溜滯シ、右舷後部水線上部ノ破損口ヨリ浸水アルヲ認メ、其ノ他不明ノ箇所ヨリ多少ノ漏水アルヲ發見セリ、又機關部ニ於テハ海軍大機關士吉川力部下ヲ指揮シテ專ラ其ノ授受整理ニ任セシカ、我カ機關部捕獲員ノミニテハ人員稍少キニ失シ、機關ノ運轉十分ナラサルヲ認メ、俘虜機關部員ヲ艦内ニ殘留シ、之ヲ使用セント欲セシニ、言語意志ノ疎通セサリシカ爲メ、俘虜機關部員ノ多數ハ既ニ我カ軍艦ニ移乗シ、艦内ニ殘留セルモノモ亦機關室ヲ遁レ去リタルニ因リ、我カ兵員ハ全力ヲ盡シテ機關

運轉ノ準備ニ著手シ、午後十一時漸ク前進ヲ起スヲ得タリ、

(三)「ダネラル、アドミラル、アブラクシン」ノ捕獲處分

「アブラクシン」ノ捕獲指揮官出雲副長上村海軍中佐ハ、午後三時三十分「アブラクシン」捕獲回航ノ命ヲ受ケ、出雲、吾妻、常磐ノ三艦ヨリ派出シタル捕獲員ヲ率非テ、午後五時「アブラクシン」ニ達シ、同艦長ニ引渡ヲ受クヘキ旨ヲ告ケ、直ニ左ノ處置ヲ爲セリ、

一、我カ軍艦旗ヲ掲ケ敵ノ掲ケ居タル降服ノ信號ヲ降下ス

二、准士官以上ヲ後甲板ニ下士卒ヲ前甲板ニ集合ス

三、各要所ニ番兵ヲ配置ス

四、敵艦長以下士官下士卒全部ヲ我カ艦隊ニ移ス

五、爆發裝置等艦ノ保安ヲ危ウスル仕掛ノ有無ヲ檢ス

六、各掛員ヲシテ炭水、機關、舵機、船體等ヲ調査セシム

而テ下士卒ニハ一物ヲモ携帶セシメス、上甲板ニ集合セシメタル儘、極テ急速ニ之ヲ輸送シタルヲ以テ、彼等ハ喧噪混雜ヲ起スヘキ猶豫サヘナク、毫モ困難ナクシテ乗員全部(艦長以下四百二十名)ヲ我カ軍艦ニ移乗セシムルヲ得タリ、此ノ間上村指揮官ハ俘虜艦長ヲ案内トシテ艦内主要部ヲ巡檢セシニ、上中甲板ノ各空處ニハ石炭ヲ搭載シタルモノ、如ク、士官室及ヒ艦長室ニハ猶袋詰石炭ノ殘存ヲ認め、金庫ハ空虛ニシテ何物ヲモ存セス、大砲ハ何レモ裝彈シアリテ、砲具其ノ他ノ附屬具ハ總テ完備セルヲ認めタリ(降服ノ當時士官ノ或モハ砲ノ主要部ヲ海中ニ投セント云フ)

ヒ出テタルモ艦長ハ司令官ノ命ナリトテ嚴ニ之ヲ禁シタリト云フ午後六時三十分俘虜輸送終リテ茲ニ全ク捕獲事業ヲ結了シ、

午後八時試運轉ヲ行ヒ良好ノ結果ヲ得タリ、

(四)「アドミラル、セニヤール」ノ捕獲處分

「アドミラル、セニヤール」ノ捕獲指揮官常磐副長上村海軍中佐ハ、午後四時頃ニ至リ俄ニ「セニヤール」ヲ捕獲回航ノ指揮官タルヘキ命ヲ受ケタルヲ以テ、直ニ其ノ準備ニ著手セシモ、時已ニ晚クシテ他艦ヨリ派出スル捕獲員ノ來集ヲ待合ハスノ暇ナク、獨リ常磐ヨリ派出ノ人員ノミヲ率非テ午後六時三十分頃「セニヤール」ニ到リ、俘虜艦長ニ向ヒ艦ノ引渡ヲ命セリ、同艦長ハ自己ノ司令官ヨリ(一)士官ハ艦長丈ケ兵員ハ其ノ三分ノ一ヲ日本軍艦ニ移スコト、(二)私有物ハ悉ク携帶ヲ許スコト、ノ命令ヲ受ケタリト告クルモ、我カ捕獲指揮官ハ急突ノ際トテ、降服條件ニ關シテ何等聞知スル所ナカリシヲ以テ、俘虜艦長ノ提言ニ從ヒ、一面ニハ乗員四百餘名中、百餘名ヲ我カ各艦ニ移スト共ニ、一面ニハ航海準備ノ整理ニ努メタリ、然ルニ我カ各艦ヨリノ捕獲員ハ容易ニ集合セス、日ハ已ニ暮レテ作業益、困難トナリ、加フルニ彼我言語十分ニ相通セス、俘虜ハ全然我カ仕事ニ關與セス、士官始メ何レモ自己ノ荷造リニ忙シク、下士卒ノ如キハ或ハ倉庫廚房ニ入りテ擅ニ飲食シ、或ハ各自處々ニ寢所ヲ作りテ眠ルノ狀態ニシテ、其ノ不規律不制裁ナルコト實ニ言語ニ絶セリ、上村指揮官ハ捕獲員ノ集ルニ從ヒ之ヲ各部ニ分配シ、先ツ兵器彈藥ノ授受ヲ爲シ、機關部員ヲシテ航海ニ耐ヘ得ル丈ケノ準備ヲナサシメ、諸倉庫ヲ閉鎖シテ番兵

ヲ之ニ附シ、午後九時二十分漸ク航行ノ準備ヲ整頓セリ、艦内諸要具ハ我カ捕獲員ノ乗艦スル以前ニ於テ及フ限リ敵自ラ之ヲ投棄破壊シ、「コンパス」ノ如キハ實用ニ耐ヘサルモノ僅ニ一個ヲ殘スノミニシテ、大砲ハ完全ナルモノ一門モナク、輕砲四門ハ之ヲ取外シテ海中ニ投棄シタルモノ、如ク、尾栓、照準器等ニシテ取外シ得ルモノハ之ヲ海中ニ投シ、十尹砲ノ如キ取外シニ不便ナルモノハ、其ノ螺絲部ヲ毀損シ、小銃、拳銃ハ一モ殘サス海中ニ投棄シ、艦内電線ノ大部ハ之ヲ切斷シ、唯汽機汽罐、操舵機ノミハ纔ニ使用シ得ルノ状態ニ在リタリ、上村指揮官ハ俘虜副長ニ向ヒ、兵器其ノ他ノ破壊ハ艦長之ヲ命令シタルカト訊問シタルニ、彼ハ他ノ將校ト相談ノ上然リト答ヘタリ、因テ已ニ降服シタル後斯カル狼藉ヲ敢ヘテスルハ軍人ノ體面上耻ツヘキニアラスヤト詰リ、其ノ不法ヲ責メシニ、彼ハ我カ捕獲員乗艦以前ナルヲ以テ差支ナシト抗辯セリ、然レトモ我カ捕獲員乗艦後ハ極テ溫順ニシテ、其ノ兵員ノ如キハ忽チ我カ兵員ト相親シミ、或ハ寢所ヲ共ニスルモノサヘアルニ至レリ、

第三節 驅逐艦「ベヅウプリヨーチヌイ」ノ擊沈(第三)

軍艦千歳ハ、五月二十七日午後六時頃、出羽第一艦隊司令官ノ旗艦笠置ヲ掩護シテ戰場ヲ去リ、長門國油谷灣ニ回航シ、同地ニ於テ新ニ出羽司令官ノ旗艦ト爲リ、是ノ夜九時五十分油谷灣ヲ發シ、十三海里ノ速力ヲ以テ翌朝ノ集合地點タル鬱陵島ニ向ヒ進航スル途上、二十八日午前四時頃左舷艦首ヨリ一驅逐艦ノ突進シ來ルヲ認メ、直ニ水雷艇防禦配置ニ移リ、回頭シテ其ノ攻

撃ヲ避ケシニ、幾何モナク該驅逐艦モ亦左舷ニ回頭シテ遁逃シ始メタリ、時ニ東天漸ク白ヲ呈シ、其ノ二橋四煙突ノ敵驅逐艦ナルヲ知り、直ニ之カ追撃ニ轉セシニ、敵驅逐艦ハ高速力ノ駛走ニ堪ヘサルモノ、如ク、距離次第ニ接近シタルヲ以テ、同二十分砲撃ヲ開始シ、五千三百米突乃至二千百米突ノ射距離ヲ以テ、十二吋砲彈六十八個、十二斤砲彈三十九個ヲ發射シ、内命中彈少クモ六個ヲ算セリ、此ノ時第一驅逐隊ノ有明モ亦北航ノ途上來リ會シテ砲撃ニ參與シ、近距離ヨリ十二斤砲彈十二個ヲ發射セシカハ、敵ハ遂ニ全ク戰闘航海力ヲ失スルニ至レリ、其ノ位置北緯三十五度三十五分東經百三十一度十七分ナリ、是ニ於テ千歳ハ敵驅逐艦ノ到底沈没ヲ免レサルヲ認メ、五時二十七分砲撃ヲ中止シ、有明ヲ率非テ再鬱陵島ニ向ヒテ進ミシニ、五時三十分八重山ヨリ、敵戰艦四隻、巡洋艦二隻、六〇三地點ニ在リ北東ニ進ム、トノ電報ニ接シタルヲ以テ、之ニ會合スル如ク針路ヲ定メ、漸次速力ヲ増シテ十六海里トナセリ、已ニシテ六時三十分頃ニ至リ、左舷正横ニ「ドンスコイ」及ヒ右舷艦首ニ海防艦一隻ヲ認メシモ、敵主力艦隊ニ向フノ急務ナルヲ思ヒ、此等二艦ノ所在ヲ三笠ニ報シ、尙北進ヲ繼續シ、七時五分「ドンスコイ」ヲ左舷艦尾ニ見失ヒ、爾後敵海防艦ト六七海里ヲ距テ、觸接ヲ保チシニ、敵ハ漸次針路ヲ東方ニ變シ、八時二十五分遂ニ又其ノ影ヲ東微南ニ失セリ、同五十分艦首ニ煤煙ノ簇ルヲ認メ、漸ク近ツクニ及ヒ我カ第五、第六戰隊ナルヲ知り、針路ヲ北東ニ變シ、速力ヲ十七海里ニ増シテ之ニ向ヒ、同十時三十分頃ニ至リ艦首ニ方リ砲聲ノ殷々タルヲ聞キ、更ニ速力ヲ十八海里ニ増シテ急航セシニ、砲聲暫時ニシテ絶エ、十一時二十分竹島ノ南西方約二十海里ニ達

シ、敵艦四隻ト我カ第一、第二、第四戰隊ト相對峙セルヲ發見シ、尋テ敵艦隊降服ノ無線電信ヲ傍感シタルヲ以テ、速力ヲ十三海里ニ減シ、總員萬歲ヲ三唱セリ、此ノ時第六戰隊ハ「イズムロード」型敵巡洋艦ヲ追躡セシモ速力及ハス、トノ報アリタルヲ以テ、出羽司令官ハ千歲ヲ率非直ニ二十海里ノ速力ヲ以テ之カ追躡ニ向フ途上、第六戰隊ノ「イズムロード」追躡ヲ秋津洲ニ命シ引返シツ、アルニ會シ、尙全速力ヲ以テ疾航セリ、已ニシテ午後二時秋津洲ニ追及シテ敵狀ヲ問ヒシモ、敵ハ已ニ遠ク逃逸シテ煤煙サヘモ認メ得ス、到底追及ノ見込ナキヲ以テ之ヲ止メ、秋津洲ト共ニ我カ主力艦隊ノ所在地ニ向ヒテ引返シ、午後五時第一、第二戰隊ニ合セリ、

又此ノ朝千歲及ヒ有明ノ爲メニ擊破セラレタル敵驅逐艦ハ、其ノ後ノ諸情報ニ依リ推定スルニ、「ベヅウプリヨーチヌイ」ニシテ、同艦ハ前日夕刻ロジエストウエンスキー司令長官ノ命令(艦隊司令ヲネボガトフ司令官ニ委スル件)ヲ各艦ニ通達セシカ、日没後全ク僚艦ト分離シ、單獨浦鹽斯德ニ航進中、千歲ノ爲メニ發見セラレタルモノナリ、而テ同艦ハ其ノ後終ニ全ク沈没シタルモノ、如ク、乗員中一人ノ生存者ナキヲ以テ、其ノ最後ノ狀況ヲ知ルニ由ナシ、

第四節 「スウェトラーナ」ノ擊沈(第五合戰)

第三戰隊ニ屬スル音羽、新高ノ二艦ハ、五月二十七日午後六時頃臨時、瓜生第二艦隊司令官ノ指揮下ニ入り、第四戰隊ト行動ヲ共ニシ、二十八日午前五時三十分頃嚴島ヨリ、東方ニ敵第二艦隊見ユ、トノ警信ニ接シ、直ニ之ニ對シ航進中、午前七時鬱陵島ノ南方約五十海里ニ於テ、西微南ニ

方リ假裝巡洋艦一隻ノ北方ニ向ヒ航スルヲ發見シ、音羽艦長海軍大佐有馬良橘ハ、瓜生司令官ノ命ニ依リ、音羽、新高ヲ率非、第四戰隊ト分レ針路ヲ北北西ニ定メ、十八海里ノ速力ヲ以テ西方ノ敵ニ向ヒ其ノ前路ヲ扼止セントセリ、既ニシテ八時過ニ至リ敵ハ巡洋艦「スウェトラーナ」及ヒ驅逐艦一隻ナルヲ知り、益、之ヲ窮追セシニ、敵艦「スウェトラーナ」ハ、前日ノ戰鬪ニ於テ其ノ艦首ニ大損害ヲ蒙リ、速力十五海里以上ヲ出スコト能ハサルヲ以テ、到底我カ追撃ヲ逃レ難キヲ認メ、朝鮮陸岸ニ到リテ自沈セント決シ、俄ニ針路ヲ西方ニ轉セリ、因テ音羽、新高ハ敵ヲ右舷艦首ニ保チツ、之ト竝進シ、同九時距離約一萬米突ヲ測リテ戰鬪旗ヲ掲ケ、尋テ同二十五分約九千米突ニ近ツクヤ、敵先ツ砲火ヲ開キテ戰ヲ挑ミシニ因リ、同四十分音羽先ツ應砲シ、新高踵テ砲撃ヲ開始セシモ、彈丸達セサルヲ以テ、新高ハ暫ク射撃ヲ中止セリ、(此ノ時敵彈ハ能ク新高ノ附近ニ落下セリト云フ)、同十時頃音羽ヨリ發シタル六吋砲彈一發、「スウェトラーナ」ノ艦尾ニ命中爆裂スルヲ認ムルヤ、敵ハ其ノ舵機ヲ損シタルモノ、如ク、艦首ヲ左右ニ振リテ蛇行シ始メ、爾後距離次第ニ近縮スルニ至リシヲ以テ、音羽ハ全力ヲ盡シテ益、之ヲ猛撃シ、新高モ亦十時二十五分距離八千米突ヨリ砲撃ヲ再開シ、同三十五分距離六千米突内外ヲ測ルニ及ヒ、十二斤砲ノ射撃ヲモ開始セシカハ、我カ彈丸ノ命中スルモノ頗ル多ク、敵ハ頻ニ火災ヲ起シ黑煙全艦ヲ掩フニ至レリ、而テ敵モ亦極テ勇敢ニ抗戰シ、音羽ニ於テハ彈徑不詳ノ敵彈二個海圖室及ヒ前甲板ニ命中シテ、乗組海軍少尉宮崎敬次郎、海軍一等兵曹日野仙三郎ヲ即死セシメ、海軍四等水兵植田顯次、給仕宮澤勇三郎ヲ重傷死ニ至ラシメ、海軍少主計野村環三郎以下下士卒十八名ヲ傷ツケ(此ノ十八名ハ微傷ニシテ戰鬪任務ニ堪フ)、新高ニ於テハ掲揚中

ノ信號旗ヲ貫通セラレタリ、然レトモ其ノ射撃良好ナラス、我ノ損害ハ只此ノミニシテ同四十
分頃ニハ敵ノ砲火殆ト沈黙シ、且運轉ノ自由ヲ失シタルモノ、如ク、同一地點ヲ旋轉スルニ至
レリ、是ヨリ先キ敵ノ驅逐艦一隻ハ、常ニ「スウェトラーナ」ノ非戦側ニ在リテ竝進セシカ、同艦
ノ危急ニ瀕スルヲ見ルヤ、忽チ之ト分離シ單獨陸岸ニ向ヒ遁逃セントセシヲ以テ、有馬音羽艦
長ハ新高ニ命シテ之ヲ追撃セシメ、音羽ハ「スウェトラーナ」ノ魚形水雷攻撃圈ヲ避ケツ、同艦
ノ周圍ヲ繞航シテ最近距離一千米突ニ迫リ、益々猛撃ヲ加ヘタリ、此ノ時敵ハ既ニ彈藥ノ全部ヲ
消盡シテ應戦スル能ハス（前部彈藥庫ハ前日ノ戰鬪ノ爲メ満水シタリト云フ）、又吃水線下ニ穿タレタル多數ノ彈孔ヨリハ海
水瀧ノ如ク奔入シ、且艦内到處火災ヲ起シテ防火ニ違アラサ、烈々タル火焰ハ甲板ヲ燃シ死
傷者ヲ燒キ、加フルニ近距離ヨリ發射スル我カ砲彈ハ急霰ノ如ク落下シテ、乗員ノ死傷刻々増
加シ、伏屍累々トシテ算ヲ亂シ、而モ陸上ニ逃レントスレハ、艦ハ尙十五海里ノ沖合ニ在リ、是ニ
於テ敵ノ艦長ハ艦内既ニ一發ノ彈丸ヲ存セストノ報告ニ接スルヤ、直ニ乗員救助ノ處置ヲ爲ス
ト共ニ、自艦ノ爆沈ヲ命セシモ、彈藥庫満水ノ爲メ爆藥ヲ得ル能ハス、進退維谷マリシモ、乗員死
ヲ決シテ敢テ降旗ヲ掲ケス、我カ彈雨ニ浴シツ、艦ノ沈没ヲ待テル中、艦長ハ戦死シ副長ハ重
傷ヲ負ヒテ斃レ、艦モ亦次第ニ傾斜シテ乗員多クハ身ヲ海中ニ投シタリト云フ、已ニシテ十時
五十分ニ至リ敵艦ノ傾斜漸ク烈シク沈没ニ垂ントスルヲ認メ、音羽ハ射撃ヲ中止セシカ、偶假裝
巡洋艦亞米利加丸ヨリ、我カ右舷ニ敵ノ砲艦見ユ、トノ電報ニ接スルト共ニ、南方約十海里ニ方リ、
二隻ノ艦影ヲ認メタルヲ以テ、音羽ハ直ニ之ニ向ヒ急航中、十一時六分ニ至リ「スウェトラーナ」

ノ遂ニ沈没スルヲ認メタリ、其ノ位置大凡北緯三十七度六分東經百二十九度五十五分トス、仍テ
途上會シタル亞米利加丸ニ其ノ乗員ノ救助ヲ託シ、同二十五分前記二隻ノ汽船ニ近ツクヤ、其ノ
諸威國捕鯨船ナルヲ確メ、乃チ針路ヲ反轉シテ新高ノ來會ヲ待テリ、而テ「スウェトラーナ」ノ乗
員中、士官十一名（内負傷者一名）、准士官七名（内負傷者一名）、下士卒二百七十三名（内負傷者二十一名）ハ、亞米利加丸ノ爲メ
ニ救助收容セラレタリ、

第五節 驅逐艦「ブイスツルイ」ノ撃滅（第六合戦）

敵巡洋艦「スウェトラーナ」ノ我カ音羽、新高ノ爲メニ撃破セラレ、遂ニ進退ノ自由ヲ失スルニ至
ルヤ、同艦ニ附隨セシ敵驅逐艦「ブイスツルイ」ハ、忽チ全速力ヲ以テ單獨北方ニ向ヒ遁走セント
セシヲ以テ、新高ハ有馬音羽艦長ノ命ニ依リ直ニ其ノ追撃ニ轉セリ、是ヨリ先キ我カ驅逐艦叢
雲ハ、前夜徹宵索敵ニ努メシモ遂ニ敵ニ會合セス、集合地點ニ向ヒ北上ノ途上、音羽、新高ノ敵艦
「スウェトラーナ」ト交戦シツ、アルニ會シ、乃チ好機ヲ見テ突進襲撃ヲ決行セント欲シ、音羽ノ
左前方ニ位置シテ進ミ、同時ニ敵驅逐艦ノ行動ヲ監視セシニ（此ノ時叢雲ハ音羽、新高射撃ノ監視ニ任セ
離遠クシテ容易ニ應答ヲ得ス且動モスレ、ハ誤解ヲ生センコトヲ恐レ之ヲ中止セリ）、初メ「スウェトラーナ」ノ右舷前方ニ占位セシ敵驅逐艦ハ、「ス
ウエトラーナ」ノ苦戦ニ陥ルニ及ヒ、俄ニ北走セントスル狀アルヲ以テ、叢雲モ亦直ニ速力ヲ増
シテ其ノ撃滅ニ向ヘリ、然ルニ敵ノ速力大ニシテ容易ニ追及スルヲ得ス、漸クニシテ十二斤砲
ノ最大射距離内ニ入リシヲ以テ、威嚇ノ目的ヲ以テ緩徐ナル射撃ヲ開始シ、尋テ新高モ亦砲撃
ヲ始メシカハ、敵ハ其ノ到底逃ルヘカラサルヲ知リシモノ、如ク、應戦シツ、急ニ西方ニ變針

シテ陸岸ニ向ヒ、十一時五十分頃遂ニ竹邊灣ノ北方約五海里(叢雲ノ報告ニハ約十三海里ト在リ)ナル海岸ニ擱坐セリ、是ニ於テ我カ兩艦ハ測量精密ナラサル海岸ニ急進スルノ危険ナルヲ認メ、新高ハ距離五千五百米突迄接近シタル後砲撃ヲ中止シ、叢雲ハ徐航シツ、尙接近シテ砲撃ヲ繼續セシニ、敵ノ乗員ハ倉皇トシテ陸岸ニ上リ、且船體ノ一部ヲ爆破セリ、因テ新高ハ爾後ノ處置ヲ叢雲ニ任せ、竹邊灣ニ到リ、望樓ニ敵兵上陸セシニヨリ警戒スヘキ旨ヲ通告シ、音羽ニ合スル爲メ東方ニ引返シ、午後二時三十分「スウェトラーナ」沈没位置附近ニ於テ之ト會合セリ、而テ叢雲ハ新高ト別レタル後測深シツ、尙敵艦ニ接近セシニ、敵艦ハ既ニ全ク海底ニ擱坐シ、乗員全部ハ陸上ニ逃レタル如キヲ知り、端舟ヲ派シテ敵ノ軍艦旗及ヒ救命浮標ヲ鹵獲シ、且艦内ニ殘留セシ下士一名ヲ捕ヘ、船體ハ捕獲ノ見込ナキヲ以テ之ヲ抛棄シ、又上陸シタル敵兵ノ或ハ竹邊灣望樓ヲ襲フカ如キコトアラシカヲ慮リ、同望樓ニ注意ヲ與ヘ、午後三時二十分鬱陵島ニ向ヒ前進セリ、又竹邊灣望樓(竹邊望樓ト呼稱ス)ニ於テハ、敵驅逐艦乗員ノ上陸スルヲ見ルヤ、望樓員(准士官一、下士三)ハ直ニ戦闘準備ヲ整ヘ、望樓長ハ望樓ノ安全ヲ圖ル爲メ、進シテ之ヲ撃退スルヲ利アリト認メ、部下ノ兵員四名ヲ率非敵ニ向ヒシモ、之ヲ發見セサルヲ以テ、其ノ上陸地點ニ到リシニ、二名ノ敵兵ヲ認メ、直ニ之ヲ捕ヘ、其ノ嚮導ニ依リ、更ニ山中ニ進入シテ敵ノ露營ヲ襲ヒ、艦長以下八十三名(内下士卒十名ハ「オ」ヲ捕虜トシ、三十日俘虜收容ノ爲メ來著セル水雷母艦春日丸ニ引渡セリ、)

第六節 驅逐艦「グロームキー」ノ撃沈(第七合戦)

第五驅逐隊ノ不知火(廣瀬第五驅逐隊司令乗艦)ハ、五月二十七日午後十時三十分敵艦ヲ襲撃シタル後、死傷者ヲ處置スル爲メ三浦灣ニ向ヘル途次、二十八日午前五時十五分對州東岸琴ノ浦ノ沖合約四海里ニ於テ、敵ノ裝甲巡洋艦「アドミラル、ナヒーモフ」ノ單獨彷徨セルヲ發見シタルヲ以テ、之ヲ韓埼望樓ニ報告シ、且其ノ動靜ヲ監視セシニ、敵ハ端舟ヲ卸シ乗員救助ニ從事セルカ如キヲ認メ、乃チ三浦灣外ニ在リタル假裝巡洋艦佐渡丸ニ通報シ、徐々敵ニ接近シツ、試ニ之ニ對シ砲撃ヲ加ヘタルニ、應砲セサルヲ以テ、其ノ愈、降服ノ意アルヲ認メ、之カ捕獲竝ニ乗員ノ救助ニ努ムル中、佐渡丸モ亦來リタルヲ以テ、敵ノ捕獲ヲ同艦ニ委シ、且我カ死傷者ヲ之ニ移サントスル際、又東方ヨリ敵ノ裝甲巡洋艦「ウラジミルモノマーフ」ノ、左舷ニ傾斜シツ、陸岸ニ向ヒ來ルヲ發見シ、其ノ狀亦乗員ヲ上陸セシメテ艦ヲ見棄ツルノ意ナルヲ知り、佐渡丸ト別レテ其ノ捕獲ニ向ヒシニ、敵ハ直ニ軍艦旗ヲ撤シテ降意ヲ表セリ、此ノ時敵ノ驅逐艦一隻「モノマーフ」ニ向ヒテ進ミ來リシカ、モノマーフハ其ノ應援ヲ得テ降意ヲ翻シ、モノ、如ク、再軍艦旗ヲ掲ケタルヲ以テ、不知火ハ「モノマーフ」ヲ捕獲スルニハ、先ツ敵驅逐艦ヲ撃滅スルヲ利アリト爲シ、且附近ニ佐渡丸ノ在ルヲ以テ、「モノマーフ」ノ處分ハ同艦ニ委シ、八時三十五分敵驅逐艦ニ迫リテ砲撃ヲ開始セリ、敵ハ不知火ノ突進スルヲ見ルヤ、忽チ北方ニ回頭シテ遁走セシカ、不知火ハ前日ノ戦闘ニ於テ已ニ其ノ一罐ヲ損セルヲ以テ、速力二十海里以上ヲ出スヲ得ス、追躡甚タ困難ヲ極メ、動モスレハ敵ヲ逸スルノ虞アリタリ、然ルニ幸ニ我カ一彈敵ニ命中スルヤ、敵ハ其ノ汽罐ヲ破ラレタルモノ、如ク、速力大ニ衰ヘテ我ト大差ナキニ至リ、約五六千米突ノ距離ヲ距テ、

砲火ヲ交ヘツ、北方ニ航進シ、午前十一時二十分ニハ蔚山ノ沖合ニ達セリ、此ノ時右舷前方ニ當リ廻ニ第六十三號艇^(第二十艇隊)ノ航行セルヲ認メシカ、敵ハ此ヲ味方ト誤認セルモノ、如ク俄ニ其ノ方向ニ變針セリ、而テ其ノ味方ニアラサルヲ覺ルヤ、針路ヲ反轉シ、驀然不知火ニ向ヒテ突進シ來リ、八百乃至三百米突ノ距離ヲ以テ互ニ旋迴戰ヲ行ヒ、第六十三號艇モ亦十一時四十分頃ヨリ戰鬪ニ參加シ、劇烈ナル接戰ヲナスコト實ニ四十四分間ニ及ヘリ、敵ハ初メ極テ勇敢ニ應戰シ、我カ砲彈ノ爲メ其ノ軍艦旗ノ落下スルヤ、直ニ再之ヲ掲揚シ、又巧ニ其ノ魚形水雷ヲ發射シ、不知火ヲシテ極度ノ轉舵ニヨリテ、辛ウシテ之ヲ避クルヲ得シメタルカ如キ、且其ノ彈著モ亦大ニ良好ニシテ、十二斤砲彈一個ハ不知火ノ機關室ニ命中シ、右舷第一低壓排氣管及ヒ滑弁蓋ヲ破壊シ、操舵汽機ノ汽笛蓋ヲ破リテ、右舷機及ヒ操舵機ヲ使用ニ堪ヘサラシメ、又十二斤砲彈及ヒ五十七密砲彈各一個ハ、前後ウエストス、チームバイプヲ破壊シ、前者ハ尙ケンバスポート^{スポート}及ヒ四番砲ノ砲身ヲ傷ツケ、五十七密砲彈一個ハ、ボートダビット^{ボートダビット}ヲ切斷シ、十二斤砲彈一個ハ、機關室通風筒ヲ傷ツケ、其ノ他機關砲彈ノ命中スルモノ二十餘ニ及ヒシカ、我カ彈丸ノ續々命中シテ炸烈ノ猛威ヲ逞シウスルニ至ルヤ、敵ハ大ニ士氣ヲ沮喪シタルモノ、如ク、照準次第ニ正確ナラス、彈丸悉ク艦上ヲ飛越セリ、斯ノ如ク不知火ハ右舷機及ヒ舵機ヲ擊破セラレタルカ爲メ、運轉ノ自由ヲ缺キ、屢一定所ニ旋轉シツ、敵ニ當ルノ不利ニ陥リ、戰鬪舷ヲ更フルコト四回以上ニ及ヒシモ、遂ニ能ク敵ヲ壓伏シ、午後零時四分敵砲火ヲシテ全ク沈黙セシメタリ、

又第六十三號艇ハ、終宵敵ヲ搜索セシモ遂ニ襲撃ノ目的ヲ達セス、此ノ朝蔚山ニ向ハントスル途上、午前十時二十分頃、南西方ニ當リ廻ニ一抹ノ煤煙ヲ認メタルヲ以テ、漸次之ニ接近セシニ、同四十分ニ至リ該煤煙ハ後部ニ一橋ヲ有スル水雷艇ニシテ、高速力ヲ以テ航進シ來ルカ如キヲ知ルト同時ニ、其ノ後方ニ當リ、廻ニ他ノ一條ノ煤煙ヲ發見セリ、已ニシテ十一時頃ニ至リ前者ハ二橋四煙突ノ敵驅逐艦ナルヲ知リ、其ノ前路ヲ遮ランカ爲メ針路ヲ北西北ニ變シ、二十海里ノ速力ヲ以テ之ニ向ヒ、同二十分距離約三千米突ニ近ツキシニ、此ノ時航續艦ハ我カ驅逐艦ナルヲ知リ、同二十五分砲火ヲ開キ、之ト相應シテ前後ヨリ敵ヲ挾撃シ、尋テ不知火ノ通跡ニ入レリ、

敵ノ砲火全ク沈黙スルヤ、不知火及ヒ第六十三號艇ハ、直ニ捕獲ニ向ヒシニ、敵ノ乗員ハ端舟ニ乗シ或ハ海中ニ投シテ降ヲ乞ヒシヲ以テ、不知火ハ士官二名、下士卒四十五名^(内重傷十名、五名在リ)第六十三號艇ハ士官一名、下士卒六名ヲ收容シ、艦ハ第六十三號艇之ヲ蔚山ニ曳航セント欲シ、彈孔ノ閉塞ニ力メシモ、前日來ノ長濤未タ收ラス、船體動搖ノ爲メ浸水漸次増加シテ右舷ニ傾斜シ、遂ニ午後零時四十三分蔚山港ノ北東約十五海里ノ地點ニ於テ沈没セリ、此ノ驅逐艦ハ「グロームキー」ニシテ、同艦ハ前夜來、ウラヂーミル、モノマーフ^{モノマーフ}ニ隨從セシカ、夜半、モノマーフ^{モノマーフ}ノ我カ水雷ニ傷ツキテ陸岸ニ向ハントスルヤ、同艦長ヨリ單獨浦鹽斯德ニ向進スヘキ命ヲ受ケシモ、當時、モノマーフ^{モノマーフ}ノ運命已ニ危險ニ瀕セルヲ以テ、其ノ沈没ニ際シテ乗員ヲ救助センカ爲メ尙之ニ附隨セリ、已ニシテ天明ニ至ルニ及ヒ、モノマーフ^{モノマーフ}ノ陸岸迄十分航走シ得ヘキヲ認メタ

ルヲ以テ「グロムキー」ハ之ト別レテ浦鹽斯德ニ向ヒ航走セントスル際、我カ驅逐艦不知火及ヒ第六十三號艇ニ發見追撃セラレ、到底逃走ノ道ナキヲ認メ、決然我ニ向ヒテ戰闘ヲ開始シ、奮戰頗ル努メシモ、遂ニ汽罐全部ヲ破壊セラレテ、運轉ノ自由ヲ失シ、且備砲ハ悉ク破損シテ發砲スルコト能ハサルニ至リ、加フルニ艦長ハ重傷ヲ負ヒテ斃レ、艦モ亦沈没ニ瀕セシヲ以テ、乗員ハ遂ニ艦ヲ棄テ、海中ニ投シタリト云フ、

此ノ戰闘ニ於テ、不知火ハ前記被彈ノ爲メ、乗組海軍中尉杉浦正雄外下士卒四名輕傷ヲ負ヒ、第六十三號艇ニ於テハ、僅ニ檣索等ニ輕微ノ損害ヲ蒙リタルニ過キス、而テ我ノ發射セシ彈數ハ、十二斤砲彈二百四十二個、五十七密保砲彈四百九十八個ニ達セリ、戰闘後不知火ハ三浦灣ニ到リ俘虜ヲ警備隊ニ引渡シ、而ル後佐世保ニ入港シテ修理ニ就キ、第六十三號艇ハ蔚山港ニ到リ俘虜ヲ春日丸ニ移シ、炭水ヲ補充セリ、

第七節 海防艦「ウシヤーク」ノ擊沈(第八合戰)

我カ聯合艦隊ノ主力ハ、竹島ノ南西方ニ於テ敵敗殘艦隊四隻ノ降服ヲ受ケ、之カ捕獲處分ニ從事中、午後二時頃磐手ノ檣上見張番ハ、南方ニ當リ煤煙ヲ發見シ、漸次近ツクニ及ヒ其ノ敵海防艦「アドミラル、ウシヤーク」ナルコトヲ確メタルヲ以テ、磐手ハ直ニ之ヲ各艦ニ信號シ、島村第二艦隊司令官ハ、午後三時三分上村第二艦隊司令官ニ向ヒ、磐手、八雲ノ二艦ヲ率非之カ處分ニ赴カシコトヲ請ヒ、同二十四分其ノ許可ヲ得、直ニ兩艦ヲ率非敵ニ向ヒ急進セリ、敵ハ我カ艦隊ノ集團ヲ見テ、既ニ針路ヲ反轉シテ南方ニ逃走シタルモノ、如ク、我カ兩艦ノ之ニ向ヒシ時

ニハ、其ノ艦影ヲ水平線下ニ沒シ、僅ニ煤煙ヲ認メ得ルニ過キス、因テ磐手、八雲ハ漸次速力ヲ十八海里ニ増シテ之ヲ急追セシニ、敵ノ速力ハ約十一二海里ヲ超エサリシカハ、我ハ容易ニ之ニ追及スルコトヲ得、五時過ニハ其ノ距離約一萬五千米突ニ近ツキタリ、島村第二艦隊司令官ハ、東郷聯合艦隊司令官ヨリ敵ニ近ツカハ、ネボガトフ少將ハ艦隊ヲ率非テ已ニ降服セルカ故ニ、其ノ艦モ降服シテハ如何、トノ意味ニテ、之カ勸告ヲ試ミルヘシトノ命ヲ含ミ居リシヲ以テ、五時十分戰闘旗ヲ掲グルト同時ニ、萬國船舶信號ヲ以テ (Your admiral surrendered, I would advise you to surrender) トノ信號ヲ掲ケ、發砲ヲ開始セスシテ益々追躡セシニ、敵ハ一旦回答旂ヲ半揚セシモ、忽チニシテ復之ヲ降下シ、戰闘旗ハ依然トシテ掲揚セルヲ以テ其ノ降意ナキヲ知り、同三十分信號ヲ撤シ、距離約九千米突ヲ測リテ磐手先ツ砲撃ヲ開始シ、八雲之ニ次キ、敵モ亦直ニ應砲セリ(八雲ノ報告ニ據レハ五時三十分敵ハ回答旂ヲ下ス)、此ノ時敵ハ西方ニ向進セルカ如キヲ以テ、磐手、八雲ハ敵ノ前路ヲ扼センカ爲メ針路ヲ約南西ニ定メ、左舷砲火ヲ敵艦ニ注ギシニ、敵ハ漸次左折シテ南方ニ向ヒ、同四十分頃ニハ其ノ砲火已ニ大ニ衰フルニ至レリ、同四十五分我カ二艦ハ敵ニ接近スル爲メ左二點ノ一齊回頭ヲ行ヒ、同五十分右二點一齊回頭ニ因リテ單縱陣ニ復セシニ、此ノ時敵砲全ク沈黙シ、且其ノ運轉ヲモ停止セルモノ、如シ、因テ我ハ圓戰術ヲ應用シツ、次第ニ敵ニ近ツキ、緩徐ナル砲撃ヲ加ヘシニ、六時七分爆煙敵艦ニ騰ルト共ニ、艦尾ヨリ次第ニ沈降シ、六時十分右舷ニ傾斜シテ遂ニ其ノ影ヲ沒シ、海面ハ忽チ浮游セル人員、木具等ヲ以テ蔽ハル、ニ至レリ、其ノ位置隱岐ノ正西約六十海里ナリ、同艦ハネボガトフ司令官ノ率非ル第

三戰艦隊ノ四番艦トシテ、前日晝間ノ戦闘ニハ甚シキ損害ヲ蒙ラサリシモノ、如ク、夕刻ニ至リ前續艦「アブラクシン」トノ間ニ、「アレキサンドル」三世ヲ編入セシモ、同艦ハ幾何モナク沈没シタルヲ以テ、爾後「ウシヤーク」ハ前續艦トノ距離著シク開大シ、夜ニ入ルニ及ヒテハ遂ニ之ト相失スルニ至レリ、然レトモ幸ニ我カ水雷ノ命中ヲ免レ、單獨浦鹽斯德ニ向ヒ航進中、是ノ日遂ニ我カ艦隊ノ爲メニ發見セラレタルモノニシテ、其ノ沈没ノ原因ニ至リテハ、俘虜ノ陳述相一致セス、或ハ自ラ綿火藥ヲ以テ艦底ヲ爆破シ、且「キングストン」弁ヲモ開キタリト云ヒ、或ハ全ク我カ砲彈ノ爲メ撃沈セラレタリト稱スルモ、其ノ沈没ノ急忽ナリシヨリ考フレハ、敵ハ長ク我カ砲火ノ下ニ苦シムヲ欲セス、自ラ爆發シテ沈没ヲ速ナラシメタル方信ニ近キカ如シ、「ウシヤーク」ノ沈没スルヤ、艦手、八雲ハ直ニ沈没位置ニ進ミ、端舟ヲ仰シテ溺者ノ收容ニ從事シ、其ノ乗員四百二十二名中、三百三十九名(士官十二名、准士官七名、牧師一名、下士卒三百十九名)ヲ救助シ、午後八時四十五分收容ヲ終リ、本隊ニ合センカ爲メ半速力ヲ以テ東北東ニ向ヒシカ、同十一時三笠ヨリ、佐世保ニ回航セヨ、トノ命ニ接シ、直ニ同港ニ向ヘリ、此ノ戦闘ニ於テ兩艦ノ發射セシ彈丸ハ、八ヶ砲彈八十九個、六ヶ砲彈二百七十八個ニシテ、兩艦俱ニ一モ敵彈ヲ蒙ラス、

第八節 驅逐艦「ベドゥイ」ノ降服同「グロズヌイ」ノ遁逃(第九合戰)

附敵司令長官ノ捕獲

第三驅逐隊ノ連ハ、五月二十七日夜敵艦襲撃後、復水器修理ノ爲メ蔚山港ニ到リ、翌二十八日午前八時二十三分修理竣ニ炭水補充ヲ終リ、九時三十分第五驅逐隊ノ陽炎ト共ニ出港シ、本隊ト

會合スル目的ヲ以テ鬱陵島ニ向ヒ航進中、午後二時十五分同島ノ南西方約四十海里ニ達セシ際、前方ニ當リ南東ヨリ北西ニ向ヘル二條ノ煤煙ヲ發見シ、四時頃ニ至リ二橋四煙突ノ敵驅逐艦二隻ナルコトヲ確メ、直ニ速力ヲ二十三海里ニ増シ之カ追撃ニ向ヘリ、敵ハ我ヲ發見スルヤ、極力北西方ニ向ヒテ逃走セントセシカ、四時三十分頃ニ至リ其ノ二番艦ハ急ニ速力衰ヘタルモノ、如ク、忽チ先頭艦ヨリ著シク後レ、同四十五分ニハ我トノ距離約四千米突ニ近ツキタルヲ以テ砲撃ヲ開始セシニ、敵ノ先頭艦ハ遁走シツ、直ニ應戰セシモ、其ノ二番艦ハ毫モ應砲セサルノミナラス、汽機ノ運轉ヲモ停止セルカ如ク、且其ノ檣頭ニハ白旗ヲ掲揚シ、尋テ又萬國信號ヲ以テ、重傷者ヲ有ストノ信號ヲ掲クルヲ認メタリ、因テ陽炎ハ敵一番艦ノ追撃ヲ繼續シ、連ハ砲撃ヲ中止シ、警戒ヲ加ヘツ、其ノ二番艦ニ近ツキ捕獲員ヲ派遣セシニ、降服敵艦ハ「ベドゥイ」ニシテ、重傷ヲ負ヘル敵司令長官ロジエストウエンスキー中將ノ其ノ幕僚ト共ニ坐乗セルヲ發見シ、艦長海軍少佐相羽恆三八、同中將ヲ連ニ移乗セシメント欲セシモ、敵軍醫官等ヨリ其ノ重傷ナルヲ以テ移動セサランコトヲ懇願セシニ依リ、之ヲ許シ、捕獲ノ手續ヲ實施セリ、乃チ檣頭ニ我カ軍艦旗ヲ掲ケ(敵ノ軍艦旗ハ已ニ撤去シテ)大砲、水雷ノ諸要部ヲ除去シ、彈藥其ノ他危險物ヲ海中ニ投シ、汽罐ハ操舵上必要ナル蒸氣ヲ保ツ爲メ一罐ヲ殘シテ、他ハ之ヲ消火シ(汽機ハ後ヘキ場合アルヲ慮リ其ノ主、要部ヲ除去セサリシト云フ)乗組士官四名ヲ連ニ移シ、司令長官一名、幕僚七名、及ヒ「ベドゥイ」艦長以下下士卒七十七名ヲ「ベドゥイ」ニ殘置セリ、而テ昨日來ノ戰況未タ明ナラス、途中如何ナル危害ニ遭遇シ捕獲艦ヲ見棄テサルヘカラサルヤモ測リ難シト思ヒ、捕獲員ハ悉ク歸艦セシメ

且俘虜搭載ノ儘直ニ鎮海灣ニ入港スルノ不可ナルヲ認メ、一旦蔚山ニ回航シ進退ノ命ヲ乞ハント欲シ、午後七時二十分捕獲艦ヲ曳キテ蔚山ニ向ヒ航進ヲ起セリ、時ニ東方ニ當リ砲聲頻ニ轟キ、且南方ニモ數條ノ煤煙ヲ認メシヲ以テ、頗ル警戒スル所アリシモ遂ニ異狀ナク、翌二十九日午前六時過、迎日灣附近ニ於テ明石ノ南航スルニ會シ、捕獲艦ノ曳方ヲ同艦ニ託シ、連ハ之ヲ警護シツ、共ニ佐世保ニ向ヘリ、

是ヨリ先キロジエストウエンスキー司令長官ハ、二十七日午後五時頃其ノ旗艦「スウォーロフ」ヲ退去シテ驅逐艦「ブイヌイ」ニ移乗シ、「ドミトリ」^{ドンスコイ}ノ後方ニ續航セシニ、薄暮ノ頃ニ至リ「ブイヌイ」ハ機關ニ故障ヲ生シタルカ爲メ、遂ニ「ドンスコイ」ト分離シ、爾後單獨北方ニ向ヒ航走中、一個ノ汽罐破損シテ速力大ニ衰ヘ、且石炭漸次缺乏シテ到底浦鹽斯德ニ達スルヲ得サルノ狀況トナレリ、是ニ於テ參謀長以下評議ノ結果、遂ニ日本陸岸ニ到リ司令長官及ヒ乗員ヲ上陸セシメタル後、艦ハ自沈スルコトニ決シ、若シ又航走ノ途上ニ於テ我カ軍艦ニ邂逅シ逃避ノ途ナキニ至ラハ、司令長官ノ生命ヲ救フ爲メ驅逐艦ハ白旗ヲ掲ケテ降服スルコトニ定メ、我カ海岸ニ向ハントセリ、然ルニ二十八日天明後幾何モナク、前程迴ニ「ドミトリ」^{ドンスコイ}「カニ隻ノ驅逐艦」^{後ニ「ドンスコイ」ヲ率、非テ北航セルヲ發見シ「ブイヌイ」艦長ハ無線電信ヲ以テ之ヲ招キ寄セ、ロジエストウエンスキー司令長官ニ向ヒ、艦ノ操縦自由ナラス、且石炭缺乏シ、到底浦鹽斯德ニ達スル能ハサルヲ以テ「ドンスコイ」ニ轉乗センコトヲ勸メシニ、司令長官ハ之ヲ肯セス、其ノ率非ル「ドンスコイ」ノ石炭豐ニシテ機關完全ナルヲ聞キ、遂ニ之ニ移ルコトニ決シ、「ドンスコイ」ハ端舟ヲ卸シ、司令長官及ヒ其ノ幕僚ヲ「ドンスコイ」ニ移乗セシメタリ、是ニ於テ「ドンスコイ」ハ其ノ一隻ナル「グロズヌイ」ト共ニ「ドンスコイ」及ヒ「ブイヌイ」ニ別レ北方ニ向ヒ航走中、我カ驅逐艦連及陽炎ノ追撃ヲ受ケ「ドンスコイ」ハ遂ニ降服スルニ至レリ、}

又曩ニ敵ノ一番艦ニ向ヒタル陽炎ハ、速力ヲ約二十五海里ニ増シ、益々敵ヲ急追セシニ、敵ハ漸次北方ヨリ北東方ニ轉針セシヲ以テ、我ハ太陽ノ光輝ヲ利用シ、且前後ノ十二斤砲ヲ活用センカ爲メ、敵ノ航跡ヨリ稍左方ニ偏在シツ、極力追撃ヲ行ヘリ、然ルニ敵ノ速力ハ意外ニ優大ニシテ、容易ニ追及スル能ハス、約六千米突ヲ距テ、砲火ヲ交ヘシニ、敵ハ我カ前路ヲ壓セント試ミタルニヤ、一時針路ヲ西北ニ轉シタルカ爲メ、距離大ニ短縮シテ約三千八百米突ニ近ツキタリ、因テ陽炎ハ此ノ機ニ乘シ猛烈ナル急射ヲ加ヘシニ、敵ハ遂ニ之ニ堪ヘサルモノ、如ク、漸次右折シテ再北東ニ變針シ、距離亦遠サカリテ、午後六時頃ニハ六千米突以上ニ達シ、到底追及ノ見込ナキヲ以テ、六時三十分追及ヲ斷念シ、鬱陵島望樓ニ就キテ情報ヲ問ヒ、午後十時四十分朝霧、白雲ノ二艦ニ合シ、更ニ「ドンスコイ」ノ搜索ニ從事セリ、此ノ戰ニ於テ陽炎ハ十二斤砲彈百八十一個、五十七密砲彈三百十五個ヲ發射シ、少クモ十二斤砲彈三個ハ敵艦ニ命中シタルモノ、如ク^{敵側ノ報ニ依レハ此ノ戰闘ニ於テ敵ハ六個ノ彈孔ヲ}、又我ノ蒙リタル損害ハ、一彈前部煙突ヲ貫通シタル^{穿タレ艦長負傷シ將校一名卒二名戰死セリト云フ}ト、一彈上甲板ニ備ヘタル五十七密砲藥篋ヲ破壊シテ通風筒ヲ貫キタルトノミニシテ、乗員ニハ一ノ損害ナシ、而テ其ノ遁逃シタルモノハ「グロズヌイ」ニシテ、最初「ドンスコイ」^{艦長ヨリ後任ナリシモ「ドンスコイ」ニ}ニ續航セシニ、我カ驅逐艦ノ現出スルヲ見ルヤ「ドンスコイ」ヨリ司令長官及ヒ其ノ幕僚乘艦シ居タリ

浦鹽斯德ニ往ケトノ信號アルト共ニ、「ベドウィ」ニハ白旗及ヒ赤十字旗掲ケラレシヲ以テ、「グ
ローズヌイ」ハ速力ヲ増シ（「グローズヌイ」艦長ノ報告ニ依）「ベドウィ」ヲ追越シテ其ノ前方ニ進ミ、陽
炎ト砲戦シツ、遂ニ其ノ追撃ヲ脱シ（「グローズヌイ」ハ其ノ最大速力二十六海里ニシテ而モ一萬二千里ノ航海
ルモノナルニ「グローズヌイ」能ク）三十日午前浦鹽斯德ニ達シタリト云フ（「グローズヌイ」艦長ハ浦鹽斯德到
追跡ヲ免レタルハ一奇ト謂フヘシ）著後軍港司令官ニ向ヒ「グローズ
ヌイ」ハ「ベドウィ」ト共ニ日本ノ二大驅逐艦ト砲戦シ「ベドウィ」ハ撃沈セラ
レシモ「グローズヌイ」ハ日本驅逐艦一隻ヲ撃沈シタリトノ報告ヲ爲セリ

第九節 裝甲巡洋艦「ドミトリ」ノ自沈

附驅逐艦「ブイヌイ」ノ自沈

第四戰隊（浪速、高千穂）ハ、第一、第二戰隊カ降服敵艦ノ處分ニ從事セル間、其ノ附近ニ在リテ警戒
待命中、午後四時三十分頃北西微西ニ方リ一抹ノ煤煙ヲ認メシヲ以テ、命ニ依リ第二驅逐隊（雷ヲ）ト
共ニ偵察ニ向ヒシニ、我カ水雷母艦熊野丸ナリシニ因リ、之ニ新高、音羽ノ消息ヲ問ヒ、尙索敵ノ目
的ヲ以テ鬱陵島方面ニ向ヒテ巡弋セリ、已ニシテ午後五時五十分頃西微南迴ニ「ドミトリ」、ド
ンスコイ「ノ北西ニ向ヒ疾走スルヲ發見シ、直ニ速力ヲ増シテ十五海里トナシ、之ヲ追跡シツ、
試ミニ無線電信ヲ以テ、Donsoy, Donsoy, admiral Negatoof surrendered already トノ通信ヲ
ナシ、モ、彼應セス、且敵ノ速力ハ我ト大差ナキモノ、如ク、距離容易ニ短縮セサリシカ、此ノ
時音羽、新高モ亦西南方ヨリ「ドンスコイ」ヲ追跡シ來リシカハ、敵ハ遂ニ針路ヲ北方ニ轉シテ鬱
陵島ニ正向スルニ至リ、爾後彼我ノ接近漸ク著シク、第四戰隊ハ右方ヨリ、音羽、新高ハ左方ヨ
リ、共ニ敵ヲ挾ンテ益、之ヲ急迫セリ、又音羽、新高ノ兩艦ハ、先ニ敵巡洋艦、「スウェトラ」ナ

ヒ驅逐艦「ブイスツルイ」ヲ撃滅シタル後、第四戰隊ニ會合スル目的ヲ以テ東南東ノ針路ヲ執リ
テ航進中、午後六時二十分東方遙ニ煤煙ヲ認メ、尋テ其ノ二本煙突ノ敵艦ナルヲ知り、同三分
速力ヲ十八海里ニ増シ、敵艦ニ向ヒテ急進シ、途上驅逐艦朝霧、白雲ノ南方ヨリ來ルヲ合セ、同
四十五分距離漸ク近ツクニ及ヒ、敵ハ「ドミトリ」、ドンスコイ「ニシテ、北北西ニ向進セルヲ知
リ、尋テ第四戰隊ノ東方ヨリ敵ヲ追ツテ來ルヲ認メ、午後七時十二分鬱陵島ノ南方約二十海里
ニ於テ敵艦ニ追及シ、音羽ハ距離約八千米突ヲ測リテ六寸砲ヲ發射シ（新高ノ戰隊詳報ニ據レハ七時十
分敵先ヲ發砲シ同十五分音羽
距離一萬五百米突ヨリ）、新高ハ同二十分ニ至リ射撃ヲ開始セリ、已ニシテ同四十分第四戰隊モ亦距
離七千米突ヲ測ルニ及ヒテ戰鬪ニ加ハリ、左右ヨリ猛烈ニ挾撃ヲ加ヘシカハ、敵ハ奮戰頗ル努
メ、且其ノ射撃モ大ニ正確ナリシモ、我カ優勢ナル攻撃ニ敵スル能ハス、次第ニ苦境ニ陥リ、屢火
災ヲ起スヲ見タリ、時ニ日將ニ暮レントセシヲ以テ、我ハ一舉ニ敵ヲ撃滅セント欲シテ愈々之
ニ肉薄シ、第四戰隊ハ距離約四千米突ヨリ、音羽支隊ハ距離三千米突ヨリ猛火ヲ注キ、敵ノ運命
方ニ危急ニ迫リタルヲ見、第四戰隊ハ尙更ニ敵ノ前方ニ出テ、最後ノ一撃ヲ加ヘンカ爲メ、八
時十分鬱陵島ト敵艦トノ中央ニ突入セント欲シ、浪速先ツ左舷ニ轉舵セル際、偶敵ノ六寸彈一
個左舷後部水雷室及ヒ米庫ヲ貫通シ、浸水急激ニシテ船體ノ傾斜忽チ七度ニ及ヒシヲ以テ、第
四戰隊ハ追撃ヲ斷念シ、右方ニ轉迴シテ戰鬪ヲ驅逐艦ニ譲リ、音羽支隊モ亦八時二十三分敵影
明ナラサルニ至リタルヲ以テ砲撃ヲ中止セリ、是ヨリ先キ第四戰隊ノ敵ヲ發見スルヤ、東郷聯
合艦隊司令長官ハ淺間ニ應援ヲ命ス、淺間ハ直ニ十五海里ノ速力ヲ以テ前進セシニ、七時二十

分ニ至リ、前方約七千米突ニ第四戰隊ノ敵ト砲戰ヲ開始シタルヲ認メ、速力ヲ十八海里ニ増シシモ、未タ戰場ニ達セスシテ日已ニ暮レ、遂ニ戰鬪ニ參加スルコトヲ得ザリキ、

此ノ戰鬪ニ於テ第四戰隊ハ、六寸砲彈三百八十六個、十二寸砲彈二十一個、十二斤砲彈百四個ヲ發チ、(音羽支隊ハ不明)敵ハ大火災ヲ起スコト二回ニ及ヒ、其ノ他多數ノ命中彈ヲ認メシモ、我カ損害ハ前記浪速ノ被リタル一彈ト、音羽ノ右舷中部「ネッチング」上甲板線上一呎ノ處ヲ貫通シ、中砲煙突ノ「ケーシング」ニ入りテ炸裂シ、船體ニ多少ノ損害ヲ與ヘ、卒ニ二名ニ重傷ヲ負ハシメタル六寸砲彈一個トノ外ハ、各艦一ノ被彈ナシ、而テ戰鬪後浪速ハ汽機ヲ停止シテ應急塞孔作業ニ從事シ、午後八時四十分事業竣成シ、船體水平ニ復シタルヲ以テ再前進ヲ起シ、第四戰隊ヲ率非テ鎮海灣ニ向ヒ、途上霞及ヒ叢雲ヲ合シ、又音羽、新高ハ出羽第一艦隊司令官ノ指揮下ニ復スル爲メ、戰鬪後命ニ依リ第四戰隊ト分レ、千歲(出羽司令官旗艦)所在地ニ向ヘリ、

敵艦「ドミトリ」(ドンスコイ)ハ、第四戰隊及ヒ音羽、新高ノ猛撃ヲ被リ、多大ノ損害ヲ受ケタルカ如シト雖モ、尙勇敢ニ應戰シ、戰鬪未タ局ヲ結ハサルニ日已ニ暮レタルヲ以テ、我カ諸艦ハ已ムヲ得ス砲火ヲ收メテ敵ト分レ、戰ヲ驅逐艦ニ讓レリ、是ニ於テ敵ト觸接ヲ保持シツ、其ノ機ヲ待テル第二驅逐隊ノ臘、曙、電第一驅逐隊ノ吹雪、第四驅逐隊ノ朝霧、白雲ハ、直ニ敵艦ニ向ヒ突進セリ、其ノ行動左ノ如シ、

第二驅逐隊(電)ハ、此ノ日我カ主力艦隊ノ傍ニ在リテ降服敵艦ノ警戒ニ從事中、午後四時五十分東郷司令官ヨリ、第四戰隊ニ從ヒ北西ニ見ユル敵艦ヲ攻撃セヨ、トノ命ニ接シ、乃チ急航

シ、第四戰隊ニ追及シテ其ノ後方ニ續航セシニ、同六時旗艦浪速ヨリ、敵ト觸接ヲ保テ、トノ命アリシニ依リ、第四戰隊ト音羽支隊トノ中間ニ進ミ、敵ノ直後ニ位置シテ之ニ隨行セリ、已ニシテ敵ハ日沒ニ近ツクニ從ヒ、鬱陵島ノ陰ヲ利用シテ巧ニ其ノ艦影ヲ晦マサントシ、我ハ動モスレハ敵ト相失スルノ虞アリシヲ以テ、第二驅逐隊ハ速力ヲ増シテ漸次敵ニ近接シ、我カ艦隊ノ砲撃止ムニ及ヒ、速力ヲ二十一海里ニ増シ、敵艦ト鬱陵島トノ中間ニ進入スル目的ヲ以テ鬱陵島ノ東端ニ向ヘリ、然ルニ此ノ時敵ハ已ニ停止セルモノ、如ク、且頗ル陸岸ニ接近シ、到底其ノ間ニ突入スルノ間隙ナキヲ以テ、豫定計畫ヲ中止シ、敵ノ右舷側ニ出テ、九時七分距離三百乃至四百米突ヲ測リテ、單縱陣襲撃ヲ行ヒ、各艦二個宛ノ魚形水雷ヲ發射セリ、敵ハ我カ接近ヲ知ラサルモノ、如クナリシカ、距離約五百米突ニ迫ルニ及ヒ始テ砲撃ヲ開始シ、數十發ノ彈丸ヲ發射セシモ、盡ク艦上ヲ飛越シテ一ノ命中彈ナカリキ、襲撃後第二驅逐隊ハ敵ノ北走ヲ監視スル爲メ、島ノ北方約十海里ニ在リテ終夜警戒ニ任セリ、

又第四驅逐隊ハ前夜連襲水雷攻撃ヲ行ヒタル後、午前六時五十分蔚山ニ入港シ、春日丸ヨリ水雷及ヒ炭水ヲ補充シ、朝潮ハ前日受ケタル損處ノ應急修理ヲ行フ爲メ同地ニ留リ、朝霧、白雲ノ二艦ハ鈴木司令指揮ノ下ニ午前十一時蔚山ヲ發シ、鬱陵島ニ向フ途上、午後五時三十分音羽、新高ノ二艦カ敵艦「ドンスコイ」ヲ追跡セルニ會シ、音羽ノ命ニ依リ之ニ續航セリ、八時過我カ艦隊ノ砲撃終リタルヲ以テ、襲撃ヲ決行セント欲シ敵ニ向ヒシニ、此ノ時敵ハ島影ニ其ノ影ヲ沒シ、附近ヲ搜索シタルモ發見セサルニ依リ、敵ヲ誘惑シテ其ノ位置ヲ知ラント欲シ、ホルムスヲ

イト」ヲ投下シタルモ敵尙發砲セス、因テ敵ハ或ハ島ヲ繞リテ逃走シタルニアラスヤト疑ヒ、索敵行動ニ移リ、途上第五驅逐隊ノ陽炎ヲ合シ、鬱陵島ノ北方約五十海里ニ到リシモ遂ニ敵ヲ發見セス、二十九日午前四時再鬱陵島ニ向ヘリ、

第一驅逐隊ノ吹雪ハ、前夜僚艦ト相失シ此ノ朝單獨北方ニ向ヒ航進中、午前八時頃南方ニ當リ數條ノ煤煙ヲ認メタルヲ以テ、針路ヲ反轉シテ之ニ向ヒシニ、信濃丸等ノ敵艦「シソイ、ウエリキー」ヲ捕獲セルモノナルヲ知り、乃チ其ノ傍ニ到リテ之ヲ警戒シ、十時十分本隊ニ合スル爲メ再鬱陵島ニ向ヘリ、十一時二十分頃海面ニ木具等ノ多數浮流セルヲ發見シ、速力ヲ緩メテ之ヲ檢視セシニ、中ニ「ナワリン」ノ「ライフブイ」ヲ認メ、尙海面ニ注意シツ、徐航中、一名ノ敵兵半死ノ状態ニテ海面ニ漂ヒツ、切ニ救助ヲ呼フヲ發見シテ之ヲ救助シ、(此ノ水兵ハ「ナワリン」ノ信濃丸ヲ知レリ)十一時四十五分速力ヲ十八海里ニ増加シテ益々北方ニ航進セリ、已ニシテ午後五時五十分音羽、新高ノ南東方ニ向ヒ航シ來ルニ會シ、本隊ノ所在ヲ問ヒシニ、鬱陵島ノ北方ナラントノ回答ニ接シ、尙北東方ニ向フ中、七時過ニ至リ南東方ニ方リ音羽、新高ノ敵艦「ドンスコイ」ト交戦セルヲ發見セリ、因テ吹雪ハ機ヲ見テ襲撃ヲ行ハント欲シ、屢針路ヲ變シツ、敵ト觸接ヲ保持セシニ、敵ハ遠距離ヨリ頻ニ我ニ向ヒテ發砲シ、一彈來リテ信號索ヲ切斷セリ、八時過砲戦全ク止ミタルヲ以テ、直ニ敵ノ前路ニ出テシカ爲メ、鬱陵島ノ島影ヲ利用シツ、潛進セシニ、距離約一千米突ニ近ツクニ及ヒ、遂ニ敵ノ爲メニ發見セラレテ忽チ猛撃ヲ蒙ルニ至レリ、八時三十五分敵ト反航シツ、距離約五百米突ヲ測リテ、敵ノ右舷ニ對シ魚形水雷一個ヲ發射

シ、續テ他ノ水雷ヲ發射セントスル際、敵艦第三煙突ヲ貫キ、煤煙破孔ヨリ噴出シテ後甲板ヲ覆ヒ、爲メニ照準ヲ防ケラレ發射ノ機ヲ失シタルヲ以テ、敵ノ猛撃ヲ冒シテ再之ニ迫リ、同三十七分敵ト同航シツ、其ノ發射ヲ遂ケタリ、九時二十分豫備水雷ノ裝填ヲ了リ、襲撃準備整ヒタルヲ以テ、再鬱陵島ニ近ツキ敵狀ヲ偵察セシニ、海岸及ヒ山ノ上下ニ於テ燈火ノ頻ニ移動スルヲ認メタルヲ以テ、探海燈ヲ點シテ海岸ヲ探照セシモ敵艦ヲ認メス、唯端舟ヲシキモノヲ見ルニ過キサリシカ、偶北北東ニ當リ砲聲ヲ聞キタルヲ以テ直ニ之ニ向ヘリ、然レトモ前ニ松島ノ北東岸ニ方リ「ホルムスライト」ノ光ヲ認メ、其ノ或ハ我カ艦艇ノ連環水雷ヲ投シタルヤノ疑アリシヲ以テ、危險ヲ避ケンカ爲メ島ノ南方ヲ迂回シテ其ノ北方ニ出テ、針路ヲ北東微北ニ定メ索敵シツ、我カ主力艦隊ニ合センコトヲ努メタリ、

此ノ如ク各驅逐艦ハ其ノ襲撃ヲ決行シタル後、鬱陵島ノ北方ニ在リテ終夜敵ノ北走ニ備ヘシモ、遂ニ之ヲ發見セサリシヲ以テ、敵情偵察ノ爲メ翌二十九日拂曉再鬱陵島ニ向ヒテ引返シ、第二驅逐隊ハ午前五時同島附近ニ達セシニ、「ドンスコイ」ノ島ノ南東岸ニ接シテ在泊セルヲ發見セリ、是ニ於テ矢島第二驅逐隊司令ハ、曙ヲシテ之ヲ附近ニ在ル淺間ニ通報セシメ、電ヲシテ望樓ニ就キ敵情ヲ聞知セシメ、朧ヲ率非テ漸次敵艦ニ近ツキ降服ヲ勸メシモ、何等ノ應答ナク、且艦上人影ヲ認メサルヲ以テ、敵ノ已ニ艦ヲ拋棄シタルヲ知り、之ヲ捕獲セント欲シ、朧乘組海軍中尉内藤省一以下士卒五名ヲ敵艦ニ派遣セリ、然ルニ捕獲員ノ端舟未タ其ノ半程ニ達セサルニ、敵艦ハ午前六時四十分已ニ左舷ニ傾斜ヲ起シ、同四十六分遂ニ全ク覆没スルニ至レリ、此

ノ時電ヨリ、陸上ニ多數ノ露國水兵在ル旨ヲ報シタルヲ以テ、更ニ端舟ニ命スルニ轉シテ陸上ニ到リ最高級ノ將校ヲ引致シ來ルヘキヲ以テセリ、午前九時五十分陸上派遣將校ハ「ドンスコイ」副長海軍中佐ブラヒンナルモノヲ拘引シ來リタルヲ以テ、第二驅逐隊ハ之ヲ携ヘ、後事ヲ第四驅逐隊ニ託シ、水雷炭水ノ補充竝ニ「ドンスコイ」情況報告ノ爲メ、三笠所在地ニ向ヘリ、是ヨリ先キ鈴木第四驅逐隊司令ハ、朝霧、白雲、陽炎ヲ率非、午前九時頃鬱陵島ニ達シ、矢島第二驅逐隊司令ヨリ、「ドンスコイ」ノ今朝沈没シタルコト、乗員ハ陸上ニ避難シ糧食ニ缺乏シ居ルコト等ノ情報ニ接シ、兩司令協議ノ上應急トシテ「ビスケット」ヲ送り、午後一時三艦ヲ率非鎮海灣ニ向ヘリ、敵艦「ドミトリ」・「ドンスコイ」ハ、二十七日ノ晝戰ニ主トシテ我カ第三戰隊以下ト交戦シ、甲板上ニ數個ノ敵彈ヲ受ケシモ損害大ナラス、同夜又我カ水雷攻撃ヲ被リシモ幸ニ命中ヲ免レ、其ノ後僚艦ト相分離シタルヲ以テ、單獨北東方ニ向進セシニ、翌朝ニ至リ驅逐艦「ベドゥイ」及ヒ「グロズヌイ」ノ尙續航セルヲ知レリ、已ニシテ天明後幾何モナク驅逐艦「ブイヌイ」ニ會シ、同艦ニハロジエストウエンスキー司令長官及ヒ「オスラービヤ」乗員多數ヲ收容セル旨ノ報ニ接シタルヲ以テ、「ドンスコイ」ハ汽機ヲ停止シ端舟ヲ卸シテ之ヲ自艦ニ收容セント欲セシモ、ロジエストウエンスキー司令長官ハ、「ドンスコイ」ニ移ルヲ肯セスシテ「ベドゥイ」ニ移乘シ、「グロズヌイ」ト共ニ北方ニ航走シ去リタルニ依リ、「ドンスコイ」ハ「オスラービヤ」ノ乗員二百餘名ヲ自艦ニ收容中、偶數隻ノ我カ驅逐艦ヲ發見シタルヲ以テ之ヲ中止シ、「ブイヌイ」ト共ニ航走ヲ續ケタリ、然ルニ幾何モナク「ブイヌイ」ハ汽罐破損ノ爲メ「ドンスコイ」ニ續航スルコト能ハサル

ニ至リタルヲ以テ、「ドンスコイ」ハ再進航ヲ停メ、「ブイヌイ」ノ乗員七十餘名及ヒ曩ニ收容ニ洩レタル「オスラービヤ」ノ乗員ヲ收容シ、其ノ船體ノ爆沈ヲ企テタルモ成功セス、因テ「ドンスコイ」ハ之ニ對シ八發ノ砲撃ヲ加ヘ、鬱陵島ノ南方約七十海里ノ地點ニ於テ之ヲ撃沈セリ、爾後「ドンスコイ」ハ單獨北方ニ向進セシニ、午後五時過右舷後方ニ我カ第四戰隊ヲ發見シ、尋テ又左舷ニ音羽、新高ヲ發見シタルヲ以テ、到底衆寡敵セサルヲ認メ、鬱陵島ニ擱岸セント決シ、十三海里ノ全速力ヲ以テ同島ニ向ヒ航進セリ、已ニシテ七時過ニ至リ我カ砲撃ヲ蒙リタルヲ以テ、「ドンスコイ」モ亦之ニ應シ、我カ六艦ニ對シ奮闘頗ル努メシモ、彼我ノ距離接近スルニ從ヒ、我カ彈丸ノ命中スルモノ益、多ク、火災各所ニ起リ、艦長以下死傷夥カラス、殊ニ艦内ニハ「オスラービヤ」及ヒ「ブイヌイ」ノ乗員約二百七十名ヲ收容セルカ爲メ、一彈命中スル毎ニ死傷者續出シ、光景慘烈ヲ極メタリ、然レトモ「ドンスコイ」ハ尙勇敢ニ抗戦セシカ、偶一彈來リテ舵機ヲ破壊シ、尋テ又汽管ヲ破ラレシカ爲メ操縦ノ自由ヲ失シ、五海里以上ノ速力ヲ出ス能ハサルニ至リ、運命刻々ニ窮レル際、日没ノ爲メ幸ニシテ戰闘ハ中止セラレタリ、時ニ「ドンスコイ」ハ鬱陵島ヲ距ルコト僅ニ數海里ニ過キササルヲ以テ、我カ水雷攻撃ヲ冒シツ、遂ニ同島ニ達シテ投錨シ、直ニ乗員ノ上陸ヲ開始シ、翌朝午前六時頃之ヲ終リ、乗員若干ハ艦内ニ殘リテ艦ヲ深處ニ出シ、「キング」ストン弁ヲ開キテ之ヲ沈没セシメシ後端舟ニ乗シテ上陸セリ、捕虜ノ言ニ依レハ、前夜ニ於ル我カ水雷攻撃ハ一發ノ命中シタルモノ無カリシト云フ、

又鬱陵島東望樓(同島ニハ東西ノ二望樓アリ)ニテハ、二十八日夕刻島ノ南方ニ於テ、我カ第四戰隊及ヒ音羽、新

高ノ敵艦「ドンスコイ」ト戦闘セルヲ認メ、二十九日午前零時頃同島在住邦人ヨリ、露國軍艦一隻距岸二海里ノ所ニ碇泊シ、乗員ハ端舟ニテ上陸シツ、アリ、トノ報ニ接シタルヲ以テ「ドンスコイ」ヲ避難シ來リタルヲ察シ、直ニ警戒ヲ加フルト共ニ、此ノ旨ヲ各方面ニ電報シ、且敵情ノ偵察ニ力メタリ、而テ其ノ後ノ情報ニ依レハ、敵兵ハ續々上陸シ來ルモ極テ溫順ニシテ、毫モ狼藉ノ狀ナク、其ノ艦長ヲシキモノハ重傷ノ爲メ韓人ノ家屋ニ横タハリ、且島内ニ日本人ノ在ルヲ知ラサルカ如シトノコトナルヲ以テ、進ミテ之ヲ處置スルノ必要ナキヲ認メ、我カ軍艦ノ來ルヲ待テリ、然ルニ翌朝ニ至リ敵艦「ドンスコイ」ノ自ラ深處ニ出テ、沈没スルヲ認メシカ、幾何モナク我カ第二驅逐隊來リシヲ以テ、情報ヲ之ニ告ケ、尋テ此ノ日午後ニ至リ、春日及ヒ吹雪來リテ敵兵ヲ收容シタルニ依リ、望樓ハ何等ノ損害ヲ蒙ラザリキ、

第十節 裝甲巡洋艦「アドミラル、ナヒーモフ」ノ捕獲沈没

假裝巡洋艦佐渡丸ハ同滿州丸ト共ニ、五月二十七日敵病院船「アリヨール」及ヒ「カストローマ」ヲ三浦灣ニ引致シ、二十八日午前五時我カ主力艦隊ニ合センカ爲メ、單獨三浦灣ヲ發シ、針路ヲ北方ニ執リテ航進スルコト未タ一時間ナラスシテ、前方迥ニ二橋一煙突ナル大軍艦ノ停止セラルカ如キヲ發見シ之ヲ注視スルニ、正ニ敵ノ裝甲巡洋艦「アドミラル、ナヒーモフ」ナルヲ知り、直ニ此ノ旨ヲ扶桑ニ電報シ、警戒ヲ嚴ニシ敵ニ向ヒテ前進セリ、此ノ時我カ驅逐艦一隻^{（後ニ不知ルヲ知）}該敵艦ニ向ヒテ進ミ、砲撃ヲ加ヘシモ敵ハ更ニ應砲セス、已ニシテ漸ク之ニ近ツクニ及ヒ、敵艦ハ右舷ニ傾キ且艦首著シク沈降シテ、水面既ニ「ホーズホール」ノ下部ニ達シ、乗員ハ或

ハ端舟ニ乗シテ逃レントスルモノアリ、或ハ自ラ海中ニ投スルモノアリ、頗ル狼狽セルヲ見タリ、而テ端舟ニハ「ポートフック」其ノ他ノ竿端ニ白布片ヲ揚ケテ降服ノ意ヲ表シ、「ナヒーモフ」モ亦已ニ戰鬪力盡キテ降意アルモノト察シタルヲ以テ、我ハ益々之ニ近ツキ、午前七時三十分敵艦ヲ距ツルコト約五百米突ノ位置ニ到リテ停止漂泊シ、直ニ端舟ヲ卸シテ敵艦捕獲ヲ行フト同時ニ溺者ノ救助ニ從事シ、且三浦灣附近ニ在ル滿州丸ニ向ヒ、俘虜收容ノ爲メ敵病院船ヲ率非來會スヘキヲ命セリ、此ノ時敵艦ニハ艦長以下數名ノ士官殘留セルノミニシテ、乗員ハ陸續端舟ニ乗シテ對馬東岸ニ向ヒ、端舟ニ乘リ後レタルモノハ「ライフブイ」其ノ他ノ浮沈物ヲ携ヘテ海中ニ投シ、悲鳴シテ救助ヲ求メ、且其ノ端舟ノ如キモ乗員過多ノ爲メ、皆ニ槳ヲ使用スルコト能ハサルノミナラス、亦海ニ投シタル人員ハ艇周ニ蟻附シ、轉覆ニ垂ントセルモノアリ、釜屋佐渡丸艦長ハ、航海長海軍大尉犬塚助次郎ニ命スルニ、敵艦ニ到リ捕獲ヲ宣告シ、我カ軍艦旗ヲ掲ケ、且敵ノ艦長以下ヲ拉シ來ルヘキヲ以テセリ、^{（是ヨリ先キ驅逐艦不知火ハ將校ヲ「ナヒーモフ」ニ派遣シ其ノ艦長ニ向ヒ「キングストン」}余ヲ開クヘカラサル[）]是ニ於テ犬塚大尉等ハ午前七時五十分「ナヒーモフ」ニ到リ我カ軍艦旗ヲ其ノ前橋頭ニ掲揚セシモ、同艦ハ浸水益々烈シク、將ニ沈没セントスルヲ以テ、佐渡丸艦長ハ捕獲員ニ向ヒ、軍艦旗ヲ撤シ艦長以下ヲ伴ヒ歸ルヘキヲ命セリ、此ノ時恰モ北北東ノ方向ニ當リ、露國軍艦旗ヲ掲揚セル二橋一煙突ノ大軍艦一隻現レ、漸次我ニ向ヒテ進ミ來リ、距離約一萬六千米突ニ近ツキシカ、該敵艦ハ稍右舷ニ傾斜セルモ、未タ全ク戰鬪力ヲ喪失セルモノト認ムル能ハス、然ルニ佐渡丸ハ今ヤ「ナヒーモフ」ノ溺者救助中ニシテ其ノ端舟ハ數百米突ノ距離ニ分散シ、

捕獲員ハ未タ歸艦セス、且舷側ニハ死傷者收容ノ爲メ不知火ヲ横著シアリタルヲ以テ、捕獲員及ヒ端舟ニハ至急歸艦スヘキヲ命シ、在艦員ヲハ戦闘部署ニ就カシメ、滿州丸ニハ病院船ヲ率非テ佐世保ニ回航スヘキヲ命シ、尙敵ノ舉動ヲ搜ランカ爲メ、一萬米突以上ノ距離ヨリ、試ニ六尹砲彈一個ヲ發チシニ、敵ハ忽チ其ノ軍艦旗ヲ卸シ、急遽舵ヲ轉シテ北方ニ逃走セリ、因テ佐渡丸ハ捕獲員及ヒ溺者救助員ヲ收容シ、不知火ヲシテ舷側ヲ離レシメ、直ニ敵ニ向ヒ前進中、「ナヒーモフ」ハ午前九時遂ニ對馬琴崎ノ東方約四海里ノ沖ニ沈没セリ、而テ乗員中五百二十三名(内士官以上)ハ、佐渡丸ニ收容セラレ、九十九名(内士官)ハ、端舟等ニテ對馬茂木海岸ニ上陸シ、又艦ト運命ヲ共ニセンコトヲ主張シ、我カ收容ニ應セサリシ艦長竝ニ航海長ハ、艦ノ沈没後我カ漁舟ノ爲メニ救助セラレ、翌日長門彦島ニ到着セリ、

俘虜ノ陳述ヲ綜合スルニ、「ナヒーモフ」ハ前日ノ晝戰ニ於テ數個ノ我カ彈丸ヲ受ケシモ、盡ク水線以上ニシテ其ノ損害大ナラス、死傷者モ亦僅ニ十名ヲ越エサリシカ、同夜ノ戰鬥ニ於テ右舷前部ニ我カ水雷命中シ、第一、第二、第三區ノ防水區劃ニ滿水シ、第三、第四區間ノ隔壁ニ依リテ漸ク浸水ヲ堰止スルヲ得、同隔壁ニ對スル水壓ヲ減スル爲メ、後進シツ、翌朝未明對馬海岸ニ達シ、直ニ乗員ノ陸揚ケヲ開始シタリト云フ、又之ヲ檢視シタル我カ捕獲員ハ、同艦ノ致命傷ハ右舷前部ニ命中シタル水雷ノ破孔ニシテ、其ノ位置水際ニ近キヨリ考フレハ、連繫水雷ニ因レルヤノ疑アリ、又砲彈ノ被害ハ極テ輕微ニシテ、前部右舷「ホーズホール」ノ上部ニ六尹彈孔一個、後部砲塔砲身ノ下部ニ六尹ヨリ大ナラサル彈痕一個ヲ留メ、艦橋上ニ在ル距離測定

儀ハ、彈片ノ爲メ破損セラレ、海圖室ニハ彈丸炸裂シテ二個ノ死體横タハレルヲ見ルノミ、汽罐室ニハ滿水セルモ尙汽壓四十听ヲ殘シ、發電機ハ尙微速力ヲ以テ回轉シ、端舟卸方ニ用ヒタル上甲板「ウインチ」ハ、配員ナクシテ獨リ回轉シ、祕書書類ハ全部敵自ラ之ヲ燒燬セルモノ、如シ、又砲煩ハ概ネ完全ノ状態ヲ保チ、多數ノ彈藥上甲板ニ在ルヲ認メタリト云フ、

第十一節 裝甲巡洋艦「ウラヂーミル」ノ捕獲沈没

假裝巡洋艦佐渡丸及ヒ驅逐艦不知火ハ、「アドミラル、ナヒーモフ」ノ捕獲處分ニ從事中、午前八時頃北方ニ當リ更ニ一大敵艦ノ現出セルヲ發見シ、「ナヒーモフ」ノ到底沈没ヲ免レサルヲ認メテ之ヲ拋棄シ、不知火ハ直ニ該敵艦ニ向ヒ、佐渡丸ハ「ナヒーモフ」ニ派遣シタル捕獲員ヲ收容シタル後、之ニ向ヒ急進セリ、此ノ時敵ノ驅逐艦一隻北方ヨリ來リテ敵艦ト合シタルヲ以テ、不知火ハ先ツ敵驅逐艦ト戰鬥ヲ開始シ、其ノ逃ル、ヲ追ッテ北方ニ航去シ、佐渡丸ハ敵艦ニ近ツクコト約六千米突ニ及ヒテ砲撃ヲ開始セシニ、敵ハ忽チ軍艦旗ヲ下シ、進航ヲ停止シ、諸端舟ヲ卸シ、乗員ハ爭ッテ之ニ移乗シ、陸岸ニ向ヒテ逃ル、モノ多シ、是ニ於テ釜屋佐渡丸艦長ハ、敵艦ノ降服セルヲ察シテ砲撃ヲ中止シ、午前十時敵ト相距ル僅ニ三百米突ノ處ニ漂泊シ、敵ハ裝甲巡洋艦「ウラヂーミル」モ「マープ」ナルヲ知り、直ニ捕獲處分ヲ決行セリ、時ニ敵ノ乗員ハ總テ艦ノ後部ニ集合セルモノ、如クナリシカ、佐渡丸ノ艦上ニ「ナヒーモフ」ノ俘虜群集セルヲ見テ大ニ意ヲ安シタルモノ、如ク、「ナヒーモフ」乗員ノ如ク一入トシテ周章海中ニ投スルモノヲ見ス、此ノ時「ナヒーモフ」ノ俘虜士官ハ、再三佐渡丸將校ニ告クルニ、「モノマープ」ハ自ラ

爆發スルノ虞アルヲ以テ、近ツカサルヲ可トスル旨ヲ以テシ、暗ニ「モノマーフ」ノ乗員ヲ佐渡丸ニ收容スルヲ欲セサルモノニ似タリ、釜屋艦長ハ分隊長海軍大尉福田一郎以下、士官二名、下士卒十五名ヲ捕獲員トシテ敵艦ニ派遣シ、且福田海軍大尉ニ左ノ訓令ヲ與ヘタリ、其ノ官ハ敵艦「ウラダーミル」、モノマーフニ赴キ同艦長ニ面會シ左ノ通り宣告シ最後ニ彼ノ艦長ヲ本艦ニ引致スヘシ

予ハ佐渡丸艦長海軍大佐釜屋忠道ノ命ヲ受ケ汝ノ艦ヲ捕獲シ汝ノ降服ヲ受クル爲メニ來艦セリ日本帝國軍艦旗ヲ汝ノ艦頭ニ掲クルニ付爾後汝等乗員一同ノ生命ハ我カ軍艦旗ノ下ニ安全ニ保護セラルヘシ苟モ爆發物ヲ使用シ若クハ「キングストン」、バルブヲ開ク等ノコトアラハ汝等乗員一同ノ生命ハ奪ハルヘシ又曳船ニ必要ナル準備ヲナシ之ニ要スル乗員ノ退去ヲ差シ止ムヘシ

是ニ於テ捕獲員ハ直ニ「モノマーフ」ニ到リ捕獲處分ヲ行ヒシニ、此ノ時同艦ノ傾斜ハ漸ク増加シテ約十度ニ及ヒ、右舷艦首ハ著シク沈降シテ、水面ハ砲門下僅ニ數吋ノ處ニ達シ、「ホーズホール」ハ將ニ水中ニ沒セントシ、且下甲板ニハ浸水烈シキヲ見タリ、加之「フオクスル」ニハ「ボーラード、ベット」「ケツプスタン」等ノ如キ舳索ヲ取ルヘキ裝置ナキヲ以テ、之ヲ前橋ニ取ルノ外策ナキモ、是亦前部著シク沈降セル軍艦ヲ曳クニ便ナラス、強テ之ヲ行ハシカ、徒ニ傾斜浸水ノ量ヲ増シ、顛覆ヲ速ナラシムルニ過キス、是ニ於テ時機已ニ後レテ到底曳船ノ望ナキモノト斷念シ、艦長ノ命ニ依リ午前十一時三十分總員ヲ退去セシメ、我カ軍艦旗ヲ撤シ、艦長及

ヒ副長ヲ拉シテ本艦ニ歸レリ、

「モノマーフ」ハ前夜右舷前部砲門下ニ我カ水雷命中シ（破孔水線ニ近シ）艦首沈降シテ到底浦鹽斯德ニ到ルノ見込ナキヲ以テ、對馬沿岸ニ向ヒタルモノニシテ、前日ノ戰ニ於テハ僅ニ後部左舷「ブルワーズ」ニ一個ノ六寸彈ヲ受ケタルニ過キス、我カ捕獲員ノ報告ニ依レハ、備砲ハ總テ完全ナルモ赤錆ヲ生シ、上甲板ニハ一面ニ水雷防禦網様ノ鐵條網ヲ張り、其ノ他戰備十分ナリシト云フ、

是ヨリ先キ假裝巡洋艦滿州丸ハ、此ノ朝敵ノ病院船二隻ヲ率非佐世保ニ向ハントスル際、午前七時佐渡丸ヨリ、「ナヒーモフ」沈沒ニ垂ントス、乗員收容ノ爲メ病院船ヲ率非テ來レ、トノ電信アリシヲ以テ、之ニ向ヒ航行中、同八時北方ニ當リ更ニ他ノ敵艦ヲ發見セシカ、此ノ時佐渡丸ヨリ、前電信ヲ取消ス、速ニ佐世保ニ回航セヨ、トノ再度ノ電報ニ接シ、艦長海軍大佐西山保吉ハ、病院船ハ捕獲員ノミヲ以テ回航セシムルモ安全ナルヲ認メ、監督將校ヲシテ單獨佐世保ニ引致セシメ、而テ滿州丸ハ敵艦ニ向ヘリ、十時二分之ニ接近セシニ、敵艦ハ即チ「モノマーフ」ニシテ、既ニ佐渡丸ニ降服セルヲ知り、直ニ乗員ノ收容ニ從事シ、准士官以上三十二名、下士卒三百七十四名ヲ收容シ、午後一時三十分佐世保ニ向ヒ發航セリ、而テ「モノマーフ」ハ我カ捕獲員ノ引上後、船體次第ニ沈降スルニ從ヒ、傾斜自ラ回復シ、午後二時三十分對馬西泊沖約五海里ノ地點ニ於テ、艦首先ツ水中ニ沒シ、忽ニシテ全體沈沒セリ、是ニ於テ佐渡丸ハ命ニ依リ捕虜回送ノ爲メ佐世保ニ向ヒテ航進シ、翌二十九日午前七時同港ニ著セリ、又端舟ニテ逃レタルモ

ノマーフ」ノ乗員百六十三名ハ、此ノ日午後對馬西泊ニ著シ、其ノ後「ナヒーモフ」及ヒ他ノ俘虜ト共ニ、佐世保ニ護送セラレタリ、

第十二節 戰艦「シソイ、ウエリーキー」ノ捕獲沈没

假裝巡洋艦信濃丸、同臺南丸ハ、戰場掃除ノ目的ヲ以テ、沖ノ島北方ニ向フ途中、五月二十八日午前五時十分、韓崎ノ北北東約三十海里ノ地點ニ於テ、八幡丸ノ北航セルヲ合セ、信濃丸、臺南丸、八幡丸ノ順序ヲ以テ尙航進ヲ續ケシニ、同六時三十分艦首ニ方リ敵ノ戰艦、巡洋艦、驅逐艦各一隻ヲ發見シ、尋テ其ノ戰艦ハ「シソイ、ウエリーキー」ニシテ、已ニ損傷セルモノ、如キヲ認メ、直ニ戰鬪旗ヲ掲ケ警戒シツ、漸次之ニ近ツキシニ、敵驅逐艦ハ忽チ西南ナル巡洋艦ノ方向ニ逸走シ、尋テ兩艦共ニ其ノ踪跡ヲ失セリ、(巡洋艦ハ「ウラヂーミル、モノマーフ」ニシテ、驅逐艦ハ「グロームキー」ナリシカ如シ)此ノ時八幡丸ハ、敵艦四隻見ユ、トノ信號ヲナシツ、單獨西方ニ向ヒ航進セリ、已ニシテ七時二十分「シソイ、ウエリーキー」ノ距離約六千米突ニ近ツキタルヲ以テ、信濃丸ハ將ニ砲撃ヲ開始セントスル際、敵ハ我ニ向ヒテ、將ニ沈没セントス、トノ信號ヲ掲ケ、尋テ又、救助ヲ乞フ、トノ信號ヲナセリ、因テ信濃丸ハ降服セスヤ、ト反問セシニ、敵ハ降服ノ信號ヲ掲ケタルニ依リ、信濃丸艦長海軍大佐成川揆ハ直ニ之ヲ捕獲セント決シ、分隊長心得海軍中尉山田虎雄、以下士官下士卒三十一名ヲ捕獲員トシテ敵艦ニ派遣シ、且臺南丸ニハ端舟ヲ卸シ敵ノ乗員ヲ收容スヘキヲ命セリ、八時三十分捕獲員ハ「シソイ、ウエリーキー」ニ達シ、我カ軍艦旗ヲ掲ケ、敵ノ自沈ヲ防キ、且艦ノ現狀ヲ檢セシニ、前部水雷室ハ浸水シテ艦首稍沈降シ、後部舵室ニハ水雷ヲ受ケタルカ如キモ、防水席ヲ當テ、浸水烈シカ

ラス、其ノ他水線上ニ於ル損害ハ稍大ナルモ曳航ニ堪フヘキヲ認メ、乃チ敵兵ヲ指揮シテ之カ準備ニ著手シ、臺南丸ヨリモ端舟二隻ヲ出シテ之ヲ援助シ、傍ラ乗員收容ニ從事セリ、此ノ時八幡丸ハ再北西ノ方ヨリ驅逐艦吹雪ト共ニ現レ來リ、八幡丸ヨリハ端舟ヲ出シテ曳航準備、竝ニ乗員ノ收容ニ從事シ、吹雪ハ附近ノ警戒ニ任セリ、而テ各艦ヨリノ派遣人員ハ極力曳航ニ努メ、先ツ「リーピングライシ」ヲ信濃丸ニ取ラントセシモ、距離遠ク波浪高キノミナラス、言語不通ニシテ士氣沮喪セル敵兵ヲ使用セルコト、テ、作業意ノ如クナラス、因テ各艦ヨリノ派遣員ハ敵兵ノ收容ヲ中止シ、全力ヲ盡シテ曳航準備ニ努メシカ、午前十時十五分頃ヨリ、艦動揺毎ニ海水下甲板砲門ヨリ侵入スルニ至リ、前部次第ニ沈ミ、同三十分頃漸ク信濃丸ヨリ曳索ノ一端ヲ導キ得タルモ、此ノ時艦ノ沈降益、急激ニシテ、曳航ノ見込全ク絶ユルニ至レリ、是ニ於テ信濃丸艦長ハ斷然曳航ヲ中止スルニ決シ、捕獲員ニ歸艦ヲ命シ、專ラ敵乗員ノ救助ニ著手シ、吹雪ハ單獨北方ニ向ヒ航進セリ、各艦ヨリ派遣シタル捕獲員ハ、我カ軍艦旗ヲ撤シ、敵ノ艦長以下ヲ拉シテ、十時五十分「シソイ、ウエリーキー」ノ舷側ヲ離レシカ、其ノ後僅ニ五分時ヲ經テ同艦ハ右舷ニ傾倒シ、大渦流ヲ起シツ、忽然トシテ覆没シ、其ノ收容ニ洩レタル、全乗員ノ三分ノ一以上ノ人員ハ、救命浮標其ノ他浮作物ヲ携ヘテ海中ニ投セリ、其ノ位置對馬韓崎ノ東微北約三十海里ナリ、我カ救助隊ハ專心溺者ノ收容ニ努ムルコト約一時間半ニ及ヒ、信濃丸ニハ准士官以上十八名、下士卒百四十六名、臺南丸ニハ准士官以上十九名、下士卒百七十七名、八幡丸ニハ士官五名、下士卒二百四十八名ヲ收容セリ、(合計准士官以上四十二名、下士卒五百七十一名ニシテ同艦ノ定員ハ艦長以下約六百六十名ナリ)而テ信濃丸艦長ハ、

鬱陵島附近ニ於テ必ス彼我主力艦隊ノ第二ノ戦闘アルヘキヲ推想シ、午後一時三十分信濃丸、臺南丸及ヒ八幡丸ヲ率非、同島ニ向ヒテ航進セリ、
 俘虜ノ陳述竝ニ我カ捕獲員ノ視察セシ所ヲ綜合スルニ、「シソイ、ウエリーキー」ハ、前日ノ晝戰ニ於テ前艦橋ノ前方左舷側水線下ヲ撃破セラレテ浸水シ、是ノ夜モ亦艦尾ニ我カ水雷一發ヲ受ケテ舵ヲ損シ、對馬海岸ニ向フ途上、我カ軍艦ニ發見セラレタルモノニシテ、我カ捕獲員ノ赴キタル時ニハ、海圖室、無線電信機室及ヒ祕密書類、諸測器ノ如キハ、悉ク破壊若クハ焼燬セラレ、艦橋上ニハ唯僅ニ英版萬國信號書一冊ヲ見ルノミ、甲板ニハ約二十ノ死屍、空藥莖ト相混シテ各所ニ散亂シ、下士卒ハ或ハ酒ニ酔フモノ、或ハ士官室ニ至リテ物品ヲ盜ムモノ、或ハ暗所ニ入リテ飲食ヲ恣ニスルモノ等アリテ、頗ル亂雜ヲ極メタリ、機械室及ヒ舵機室ハ完全ナリシカ如ク、汽罐室ハ蒸氣排出ノ爲メ入ルコトヲ得サルモ、蒸氣ハ尙八十听ヲ保チ、我カ捕獲ニ著手スル迄ハ唧筒ヲ使用シテ極力排出ニ努メシモ、乗員ノ收容ヲ開始スルニ及ヒ排水ヲ中止シ、且故意ニ機關室内ノ諸弁ヲ開放シタリト云フ、

第十三節 自餘艦艇ノ行動

五月二十八日ニ於ル戰鬥ノ狀況ハ、逐節記述セシ如クナルカ、此等ノ行動ニ參與セサリシ聯合艦隊諸艦艇ノ此ノ日ニ於ル行動ハ左ノ如シ、

(一)軍艦ノ部

第三戰隊ノ笠置(出羽第一艦隊司令官旗艦)ハ、二十七日ノ戰鬥ニ於テ水線下ニ敵彈ヲ受ケ浸水烈シキヲ

以テ、午後六時戰場ヲ去リ、千歳ニ護衛セラレテ午後八時三十分頃油谷灣ニ達シ、直ニ出羽第一艦隊司令官ノ旗艦ヲ千歳ニ移シ、千歳ハ直ニ出港シ、笠置ハ獨リ殘留シテ應急修理ニ著手セリ、笠置ハ一時浸水ノ烈シキニ當リテハ、陸岸ニ乗上クルノ止ムヲ得サル狀態ナリシモ、油谷灣ニ回航中、全力ヲ盡シテ排水ニ從事シタルト、一時灰塵ノ爲メ使用ヲ絶チタル諸唧筒中、漸次使用ニ復スルモノヲ生シタルトノ爲メ、油谷灣著港ノ際ニハ稍現狀ヲ維持シ得ルノ見込アリシヲ以テ、擱岸ヲ中止シ、尙極力排水ニ努メシニ、十時三十分頃ヨリ漸次減水ヲ見ルニ至レリ、而テ投錨後直ニ潛水器ヲ以テ損所ノ検査ヲ試ミタルモ、灣内波浪高クシテ其ノ使用困難ナルノミナラス、水中燈ノ硝子破損シテ遂ニ其ノ目的ヲ達セス、因テ艦内ヨリ之ヲ検査セント欲シ、減水ノ狀況ニ照ラシテ炭庫ヲ開放スルモ危險ナキヲ認メ、午後十一時頃、メーシホルヲ開キ、石炭ヲ排除シテ漸ク彈孔ノ位置ヲ確メ、直ニ修理ニ著手シ、二十八日午前十一時三十分應急塞孔ヲ完了セリ、是ニ於テ再戰場ニ向ハント欲シ、佐世保鎮守府ニ我カ艦隊ノ所在地ヲ電聞セシニ、艦隊ハ今朝松島ノ南方ニ在リシカ、午前九時二十分頃南下シ、同三十五分頃竹邊灣ノ東ニ在リタリ、船體ハ見エサルモ砲聲盛ナリ、トノ返電アリシヲ以テ、午後二時出港シテ竹邊灣沖ニ向ヘリ、然ルニ日没ニ至ルマテ一モ我カ艦艇ニ會セス、午後十時三十五分ニ至リ、千歳ヨリ浪速ニ發シタル電信ヲ感受シタルヲ以テ、千歳ニ向ヒ爾後行動ニ關スル指令ヲ乞ヒシニ、尾崎灣ニ回航スヘキ命ニ接シ、二十九日午前零時十五分針路ヲ轉シテ同灣ニ向ヘリ、

第七戰隊ノ第一小隊タル扶桑(山田第三艦隊司令官旗艦)、高雄及ヒ筑紫ハ、二十七日夜對馬南端ト鴻島トノ間ノ警戒ニ從事中、二十八日午前三時十五分東郷聯合艦隊司令長官ヨリ、第七戰隊ハ前日ノ戰場ニ到リ殘敵ヲ殲滅セヨ、トノ電命ニ接シタルヲ以テ、午前四時神埼ノ南西ニ西約八海里ヨリ沖ノ島ニ向ヒシニ、同六時五分佐渡丸ヨリ、「アドミラル、ナヒーモフ」四〇七地點(神埼ノ東微南約十八海里)ニ在リ、トノ情報ニ接シ、針路ヲ轉シテ之ニ向ヒ直進セリ、然ルニ七時五分ニ至リ佐渡丸ヨリ更ニ「ナヒーモフ」沈没ニ瀕セル旨ノ報アリタルヲ以テ、之ニ向フヲ止メテ再東方ニ變針シ沖ノ島ノ方ニ進ミシニ、幾何モナク佐渡丸ヨリ發シタル、敵艦見ユ、トノ電報ヲ感シ、九時五分北北西ニ變針シ、同十一時頃信濃丸等ノ「シソイ、ウエリーキー」ヲ、佐渡丸等ノ「モノマーフ」ヲ捕獲セルヲ認メ、午後一時北微西ニ變針シ、行々索敵シテ鬱陵島ニ向進セリ、尋テ同一時二十分英國商船一隻ノ西航スルニ會シ、筑紫之ヲ臨檢セシニ、同船ハShieldト稱シ、鐵道枕木ヲ搭載シ、小樽ヨリ大沽ニ向フモノニシテ、疑フヘキ點アラサルモ、四四七地點(北緯三十五度〇分、東經百三十度十分)附近ニ於テ救助セシト稱スル「ナワリン」ノ帽章ヲ有スル敵水兵二名乗船セルヲ以テ、山田第三艦隊司令官ハ筑紫ニ命シ、我カ監督將校ヲ乗セ、佐世保ニ回航セシメ、尙北方ニ向ヒテ索敵シ、二十九日朝鬱陵島ノ南西約四十五海里ニ達セリ、第七戰隊ノ第二小隊タル鳥海、摩耶ハ、大口灣口警戒ニ從事中、二十八日午前四時三十分、山田司令官ヨリ、第一小隊ハ今ヨリ昨日ノ戰場ニ急航シ殘敵ヲ全滅セントス、出來得レハ第二小隊モ來會セヨ、トノ命令ニ接シ、午前四時五十五分大口灣ヲ發シ、沖ノ島ニ向ハント

セシニ、前日來ノ波浪尙高ク、艦ノ動搖甚シクシテ、砲ノ操縱困難ナルヲ以テ、先ツ暫ク三浦灣ニ到リ、波浪ノ靜ルヲ待タント決シ、午前九時同灣ニ向フ途中、敵ノ巡洋艦「アルマーズ」型及ヒ假裝巡洋艦「ゾネーブル」型ノ南航スルヲ發見シ、直ニ針路ヲ轉シテ之ニ向ヘリ、偶宇治南方ヨリ來リ會シ、(同艦ハ五島宇久島方面ニ在リテ警戒並ニ通信連絡ニ從事中此ノ朝山田司令官ヨリノ前記電命ニ接シ午前六時宇久島ヲ發セリ)該二艦ハ敵ノ病院船ニシテ、我カ將校之ニ乗船シ、佐世保ニ回航中ナル旨ヲ告ケタルヲ以テ、宇治ヲシテ列ニ入ラシメ、復前日ノ戰場ニ向フ途次、對馬橫浦灣ノ東方約十六海里ノ地點ニ於テ「アドミラル、ナヒーモフ」ヲ艦載水雷艇一隻ノ漂流セルヲ拾得セリ、因テ宇治ハ之ヲ三浦灣ニ曳航シ、鳥海、摩耶ハ尙附近ヲ搜索シ、更ニ敵ノ端舟二隻ノ浮流セルモノヲ拾獲シテ、午後七時三十分三浦灣ニ歸リシニ、山田司令官ヨリ、其ノ隊ハ沖ノ島附近ニ到リ、敵情ヲ得タル後獲物ナケレハ便宜竹敷ニ歸リテ炭水ヲ補充シ、港口警戒ニ從事セヨ、トノ電命達シ居タルヲ以テ、同七時四十五分三艦ハ再沖ノ島ニ向進シ、二十九日午前零時同島附近ニ達シ、望樓ニ就キテ情報ヲ問ヒ、竹敷ニ向ヒ歸航ノ途ニ就ケリ、

(二) 驅逐艦ノ部

第一驅逐隊ノ春雨(司令官乘艦)ハ、二十七日夜敵艦搜索中僚艦ト相分離シ、且二十八日黎明ノ頃ヨリ、曩ニ衝突ノ爲メ蒙リタル損處ヨリノ漏水漸ク増加セシヲ以テ、修理ノ爲メ竹敷ニ向ヒ、午後五時二十五分同港ニ入港セリ、吹雪ハ二十七日夜僚艦ト分レタル後、單獨北方ニ航進シテ「ドンスコイ」ヲ襲撃ニ從事シ、有明ハ二十八日朝千歲ト共ニ敵驅逐艦ヲ撃破シタル

後、竹敷附近ニ於テ主力艦隊ニ合シ、霞ハ二十七日夜敵艦隊ノ襲撃ニ從事シタル後、單獨鬱陵島ニ向ヒテ北上シ、二十八日夜第四艦隊ト合シ之ニ續行セリ、又曉ハ二十七日夜味方水雷艇ト衝突シ、漏水甚シキヲ以テ修理ノ爲メ竹敷ニ向ヒ、二十八日午前八時四十分同港ニ著シ、直ニ應急修理ニ著手セリ、

第二驅逐隊ノ艦(司令乗艦)曙、電ハ、二十七日夜襲撃ヲ行ヒタル後、艦隊集合地點タル鬱陵島ニ向フノ途次、二十八日午前八時三十分頃、韓國冬外串ノ東方約五十海里ノ地點ニ於テ、敵艦「ドンスコイ」及ヒ敵驅逐艦二隻ノ徘徊セルヲ認メタルモ、此ノ時曙ハ右舷機過熱ノ爲メ十五海里以上ノ速力ヲ出スコト能ハサリシノミナラス、敵ノ主力ヲ撃破スルヲ緊要ナリト認メタルヲ以テ、矢島司令ハ無線電信ヲ以テ敵狀ヲ各方面ニ通報シツ、我カ本隊ニ合センカ爲メ竹島方面ニ向ヒ、午後三時頃我カ主力艦隊ノ敵艦四隻ヲ捕獲セルニ會シ、尋テ更ニ第四艦隊ト共ニ「ドンスコイ」攻撃ニ向ヘリ、又雷ハ前夜ノ襲撃ニ多大ノ損害ヲ蒙リ、爾後ノ戰鬪行爲ニ耐ヘサルニ至リタルヲ以テ、修理ノ爲メ竹敷ニ向フニ決シ、二十八日午前九時四十分同港ニ著セリ、

第三驅逐隊ノ東雲(司令乗艦)ハ、二十七日夜敵艦襲撃ノ後、後續艦ト分離シテ單獨鬱陵島ニ向進シ、二十八日天明同島ノ南南西約三十海里ニ達シテ、第六艦隊ト會合シ、尋テ我カ主力艦隊ニ合セリ、薄雲及ヒ霞ハ襲撃後共ニ北上シテ正午頃我カ主力艦隊所在地ニ進ミ、爾後東雲ト共ニ主力艦隊附近ニ在リテ捕獲敵艦ノ警戒ニ任セリ、又漣ハ陽炎ト共ニ鬱陵島ニ向フ途

上、二十八日午後四時頃、敵司令長官ロジエストウエンスキーノ乗艦セル驅逐艦「ベドゥイ」ヲ捕獲セリ、

第四驅逐隊ノ朝霧(司令乗艦)白雲ハ、二十八日夜「ドミトリ」ト「ドンスコイ」ノ襲撃ニ從事シ、朝潮ハ蔚山ニ於テ前日晝戰ニ受ケタル損處ノ應急修理ヲ施シ、二十八日午後三時十五分修理ヲ終リテ、竹敷ニ向ヒ將ニ出港セントスル際、對馬舟志灣附近ニ、敵艦「アドミラル、ナヒーモフ」漂流シツ、アリトノ情報ニ接シタルヲ以テ、急速該地ニ到リシモ其ノ艦影ヲ認メス、因テ更ニ竹敷ニ向ヒ午後九時三十五分同港ニ入港セリ、又前夜浸水ノ爲メ列ヲ離レ竹敷ニ向ヒタル村雨ハ、二十八日午前八時四十五分竹敷ニ著シ、直ニ應急修理ニ著手セリ、

第五驅逐隊ハ、二十七日夜敵艦襲撃後各艦個々ニ分離シ、不知火(司令乗艦)ハ死傷者處理ノ爲メ三浦灣ニ向ヒ、翌朝「アドミラル、ナヒーモフ」及ヒ「ウラダーミル、モノマーフ」ヲ捕獲、竝ニ驅逐艦「グロームキー」ノ撃滅ニ從事シ、叢雲ハ二十八日朝鬱陵島ニ向ヒ航進中、午前九時頃我カ音羽、新高ノ敵艦「スウェトラーナ」ヲ追撃セルニ會シテ之ト合シ、尋テ敵驅逐艦「ブイスツルイ」ノ撃沈ニ從事シ、陽炎ハ前夜襲撃後、水雷、炭水補充ノ爲メ蔚山港ニ到リ、二十八日午前九時三十分同港ヲ發シテ漣ト共ニ行動シ、敵驅逐艦「ベドゥイ」ヲ捕獲、竝ニ同「グロームキー」ノ追撃ニ從事セリ、又夕霧ハ二十七日夜襲撃中、味方驅逐艦ト衝突シテ艦首ヲ破壊シタルヲ以テ、修理ノ爲メ佐世保ニ向ヒ、二十八日天明筑前大島附近ニ達シ、同日午後七時五十五分佐世保ニ入港セリ、

(三) 水雷艇ノ部

第一艇隊(第六十九號艇司令、第六十八號艇、第七十號艇、第六十七號艇)ハ、二十七日夜襲撃ノ際、第六十九號艇ハ沈没シ、其ノ他ノ三艇ハ全ク相分離セリ、即チ第六十八號艇ハ、損所ノ應急處置、並ニ死傷者處分等ノ爲メ、二十八日午前九時三十分竹敷ニ入港シ、第七十號艇ハ、炭水補充ノ爲メ、二十八日午前十一時五十分三浦灣ニ著セシモ、母艦在ラサリシヲ以テ、更ニ竹敷ニ向ヒ午後四時五十分同港ニ著シ、第六十七號艇モ亦炭水補充ノ爲メ、二十八日天明三浦灣ニ入港セシモ、母艦不在ナリシヲ以テ、止ムヲ得ス竹敷ニ向ヘリ、

第九艇隊(蒼鷹司令、雁、燕、鶴)ハ、二十七日夜襲撃ノ際各艇相分離シ、二十八日朝再三浦灣ニ會合セシカ、母艦在ラサリシヲ以テ再竹敷ニ向ヒ出港シ、午前十一時同地ニ著シテ炭水並ニ水雷ヲ補充シ、燕ハ損所修理ノ爲メ竹敷ニ留リ、蒼鷹、雁、鶴ノ三艇ハ午後三時竹敷ヲ發シ、西水道ヲ警戒シツ、附近ヲ索敵セシモ遂ニ敵ヲ見ス、午後七時二十分多太浦ニ入リテ假泊シ、同所望樓ト聯絡ヲ保チツ、西水道ヲ監視セリ、

第十艇隊(第四十三號艇司令、第四十號艇、第四十二號艇、第三十九號艇)ハ、二十七日夜敵艦襲撃ノ際、第四十三號艇ハ味方水雷艇ト衝突シテ艇首ヲ損シ、他ノ三艇ハ全ク互ニ相分離セシモ、二十八日朝三艇ハ尾崎浦ニ於テ相會シ、炭水補充ノ上午前十一時三十分再戰場ニ向ヒテ出發シ、鬱陵島ニ向フノ途上、蔚山沖ニ於テ扶桑、高雄ノ巡弋セルニ會シ、情報ヲ問ヒタルモ得ル所ナク、日没ニ至ルマテ尙北進ヲ繼續セシモ、遂ニ何等ノ情報ニ接セサルヲ以テ、針路ヲ轉シテ西水道ニ返リ、終夜

敵ノ南下ニ對シテ警戒セリ、又第四十三號艇ハ、二十八日午後三時漸ク竹敷ニ歸著セリ、第十一艇隊(第七十三號艇司令、第七十二號艇、第七十四號艇、第七十五號艇)ハ、二十七日夕刻敵艦「スウオーロフ」ヲ撃沈シタル後、水雷補充ノ爲メ三浦灣ニ向ヒシモ、母艦不在ノ爲メ更ニ竹敷ニ赴キ、同地工場ヨリ魚形水雷ノ供給ヲ受ケ、二十八日午後五時出港シテ警戒ノ爲メ東水道ニ到リ、以テ敵ノ遁走ニ備ヘタリ、

第十四艇隊(千鳥司令、真鶴、隼、鵜)ノ鵜ハ、二十七日夕刻汽機故障ノ爲メ他艇ト分レテ竹敷ニ回航シ、他ノ三艇ハ二十七日夜徹宵索敵ニ從事シタルモ遂ニ敵ヲ發見セス、二十八日午前九時四十分美保關ニ達シ、同地ニ在ル大孤山丸ヨリ炭水ヲ補充シ、午後二時鬱陵島ニ向ヒ出發セントスルニ際シ、美保關望樓ヨリ第一戰隊ハ今朝鬱陵島ノ南方約三十海里ニ現レシモ、再南下シタルカ如ク、竹邊灣ノ東方及ヒ韓埼ノ北方ニモ朝來砲聲聞エ、又見島望樓附近ニモ損傷艦アルモノ、如ク、敵兵同地ニ上陸シ居レリトノ情報ヲ得タルヲ以テ、鬱陵島ニ向フヲ中止シ、先ツ見島附近ヨリ索敵セント欲シ午後四時針路ヲ西方ニ定メ、同七時西南西ニ變針シ、出雲、石見ノ海岸ニ沿ウテ西航シ、二十九日午前一時見島ノ北方ニ達セシモ、異狀ナキヲ以テ更ニ蔚山方面ニ向ヒ變針シタリ、

第十五艇隊(雲雀司令、鵜、鵜、鵜)ハ、二十七日夜襲撃ノ際、鵜ハ他艇ト衝突シテ、船腹ニ大破孔ヲ生シタルモ、纔ニ沈没ヲ免レ、二十八日午後六時單獨竹敷ニ入港シテ修理ニ著手シ、雲雀、鵜、鵜ノ三艇ハ、二十八日午前十時十分蔚山ニ於テ會合シ、急速炭水ヲ補充シタル上、春日丸ヨリ情報

ヲ得、午後一時第十九艇隊ノ錨ト共ニ同港ヲ發シ、同七時四十分竹邊灣ニ達シ、望樓ニ就キテ彼我ノ情報ヲ問ヒタルニ、三笠ヨリノ電報トシテ、鬱陵島ノ南方四十海里ニ於テ敵艦四隻ト、交戰中トノ報ヲ得、直ニ鬱陵島ノ南方ニ向ヒテ急進シ、二十九日午前一時三十分同島ヲ左舷正横ニ望ムニ至リシモ、彼我艦艇ノ隻影ヲ認メス、且何等ノ異狀ナキヲ以テ針路ヲ南方ニ轉セリ、

第十六艇隊ノ白鷺ハ、二十七日夜遂ニ敵ヲ發見セスシテ襲撃ノ目的ヲ達セス、二十八日午前七時三十分竹敷ニ向ハントスル途中、韓埼望樓ヨリ、通信スヘキ件アルニ因リ近寄レ、トノ信號ニ接シ、鰐浦ニ入港シタルモ波浪大ニシテ停止困難ナルヲ以テ、更ニ大河内灣ニ入り、同地望樓ヨリ、西泊沖ニ於テ彼我驅逐艦一隻交戰中、トノ情報ニ接セリ、因テ直ニ出發シテ西泊沖ニ至リシニ、佐渡丸及ヒ滿州丸ノ敵艦、ウラダーミル、モノマーフヲ捕獲中ナルヲ見タルモ、附近ニ驅逐艦ヲシキモノ見エサルヲ以テ、之ヲ佐渡丸ニ問ヒタルニ、北東約十海里ニ於テ交戰中、トノ報ヲ得、該地點ニ至リシモ遂ニ出會セス、乃チ針路ヲ轉シテ竹敷ニ向ヒ、午後三時十分同港ニ歸著セリ、

第十七艇隊(第三十四號艇司令第三十一號艇第三十三號艇第三十二號艇)ハ、二十七日夜敵艦襲撃ノ際、第三十四號艇ハ敵彈ノ爲メ沈没シ、他ノ三艇ハ襲撃中相分離スルニ至レリ、而テ第三十二號艇ハ二十八日午前七時四十分、第三十一號艇ハ同十時五十分、第三十三號艇ハ同日正午、何レモ竹敷ニ入港シ、直ニ炭水兵器ヲ補充シタル上、第三十一號及ヒ第三十三號ノ兩艇ハ、東水道警戒ノ爲メ出動

シ、第三十二號艇ハ諸部手入ノ爲メ竹敷ニ殘留セリ、

第十八艇隊(第三十六號艇司令第六十號艇第六十一號艇第三十五號艇)ハ、二十七日夜敵艦襲撃ノ際、第三十五號艇ハ敵彈ノ爲メ撃沈セラレ、自餘ノ諸艇ハ二十八日午後零時三十分迄ニ逐次竹敷ニ歸港シ、直ニ水雷炭水ヲ補充搭載シ、午後六時竹敷ヲ發シ、東水道ノ警戒ニ從事セリ、

第十九艇隊(錨司令、鴻雄)ハ、二十七日夜敵ヲ發見セスシテ、遂ニ襲撃ノ目的ヲ達セス、錨ハ二十八日午前七時二十分蔚山ニ到リテ炭水ヲ補充シ、午後一時第十五艇隊ト共ニ同地ヲ發シ、爾後同隊ト行動ヲ共ニセリ、又鴻及ヒ雄ハ二十八日午前五時三十分、松島ノ南方約六十海里ニ於テ第五戰隊ト會シテ之ニ附隨シ、尋テ主力艦隊ト合シ、爾後我カ艦隊ト降服敵艦トノ間ヲ往復シテ、通信並ニ俘虜輸送等ニ從事セリ、

第二十艇隊(第六十五號艇司令第六十二號艇第六十四號艇第六十三號艇)ハ、二十七日夜索敵中、午前二時頃各艇個々ニ相失シ、第六十五號艇ハ二十八日拂曉韓埼ノ東方ニ於テ、敵巡洋艦、ウラダーミル、モノマーフヲ發見シ、襲撃ノ目的ヲ以テ之ニ近ツキシニ、同艦ハ著シク右舷ニ傾斜シ、乗員既ニ退艦ノ準備ヲナシ居ルノミナラス、我カ佐渡丸滿州丸モ亦之ニ向ヒテ進ミ來リシヲ以テ、之ヲ讓リ、蔚山港ニ至リテ第六十二號艇ト會合シ、尋テ第六十三號艇モ亦敵驅逐艦「グロームキー」ヲ撃破シテ、午後三時三十分蔚山ニ入港セシカ、偶我カ艦隊ハ鬱陵島附近ニ於テ敵ノ敗殘艦隊ト交戰中、トノ情報ニ接セシヲ以テ、三艇ハ直ニ出港シテ鬱陵島ニ向ヒテ急航シ、同島ノ北方約三四十海里ノ地點迄索敵セシモ、遂ニ得ル所ナクシテ鬱陵島ニ向ヒ引返セリ、又第六

十四號艇ハ僚艇ト分離後、單獨鬱陵島ニ到リシモ、彼我ノ隻影ヲ認メサリシヲ以テ、竹敷ニ向ヒ歸航ノ途ニ就キタリ、

吳鎮守府所屬ノ第五艇隊(福龍司令、第二十五號艇、第二十六號艇、第二十七號艇)ハ、門司ノ警備ニ從事中、二十七日午前十時過、吳鎮守府司令長官ヨリ、敵第二艦隊朝鮮海峽東水道ヲ通過セントス、トノ電報ニ接シタルヲ以テ、司令海軍少佐小川水路ハ、直ニ各艇ヲシテ炭水糧食ヲ滿載セシメ、出港準備ヲ整ヘ後命ヲ待チシニ、午後四時頃各鎮守府司令長官ヨリ、敵艦隊東水道ヲ航過シ、我カ艦隊之ヲ邀撃シテ、沖ノ島ノ北方七海里ニ於テ劇戰中、トノ電報ニ接シ、艇隊ヲ率非戰場ニ向ヒテ出發セリ、然ルニ六連島附近ニ到ル頃ヨリ風波強暴ニシテ、艇ノ動搖烈シク、艇體小ナル第二十六號、第二十七號艇ノ如キハ、航行危險ニシテ、到底行動ニ耐ヘサルヲ察シ、乃チ兩艇ヲシテ六連島角島間ノ警戒ニ任セシメ、福龍及ヒ第二十五號艇ノミヲ率非、沖ノ島ノ北方十海里ニ向ヒシニ、怒濤益、高クシテ汽機ノ空轉甚シク、止ムヲ得ス速力ヲ減シテ七海里トナシ、午後九時十分漸ク沖ノ島ノ正東約十二海里ノ地點ニ達セリ、時ニ北西微北ニ方リ、砲火竝ニ探海燈ノ閃光ヲ認メ、且遠ク砲聲ノ轟クヲ聞キタルヲ以テ、直ニ同方面ニ向進セシニ、砲火砲聲共ニ漸次微弱トナリ、二十八日正子頃ニ至リテハ全ク消滅セシカハ、爾後南北ニ索敵セシモ遂ニ敵ニ會セス、午前二時新情報ヲ得シカ爲メ角島ニ向ヒ、午前六時十五分同錨地ニ達セリ、因テ望樓ト通信ヲ交換シ情報ヲ求メタルニ、午前八時三十分望樓ヨリ、敵兵約三十名端舟ニテ見島ニ上陸セントス、トノ報ニ接シタルヲ以テ、急速出港シテ見島

ニ向ヒ、午後一時三十分同島ニ著シ、敵工作船「カムチャーク」ノ乗員五十六名ヲ俘虜トシ、且「ピンネース」一隻ヲ鹵獲セリ、此ノ時海軍軍令部長ヨリ、見島附近ニ敵破壊艦アルモノ、如キヲ以テ沿岸ヲ巡視シ、同地附近ニ到リ臨機作戰セヨ、トノ電命ニ接シ、俘虜ヲ兩艇ニ分乗セシメ、鹵獲端舟ヲ曳キ、午後四時三十分見島ヲ發シ、五時第二十六號艇及ヒ第二十七號艇ヲ合セ、見島附近ノ海面ヲ巡視シタルモ、竟ニ敵艦ヲ認メス、午後八時角島錨地ニ歸リ、翌朝福龍及ヒ第二十五號艇ハ門司ニ到リ、俘虜ヲ同地警泊ノ大和ニ引渡シ、又第二十六號艇及ヒ第二十七號艇ハ、彦島南風泊ニ敵艦「ナヒーモフ」艦長外一名(後ニ至リ同艦航海長ナルヲ知レリ)漂著セリトノ報ニ接シ、同地ニ到リ之ヲ收容セシモ、兩名共長時間海中ニ漂ヒタルカ爲メ、哀勞甚シキニ依リ、之ヲ水上警察署ニ委託シ、更ニ附近海面ノ警戒搜索ニ從事セリ、

(四) 特務艦ノ部

假裝巡洋艦亞米利加丸ハ、二十七日夕刻三浦灣ヲ出テ鬱陵島ニ向ヒテ航進中、二十八日午前四時三十分頃、前方ニ一條ノ煤煙ヲ發見シ、同五時十分八重山ヨリ發シタル、敵ノ第二艦隊六〇三地點(韓國冬外申ノ東、微南約四十海里)ニ見ユ、トノ無線電信ヲ感シタルヲ以テ、同三十分戰場ニ近ツカント欲シテ東北東ニ變針セシニ、曩ニ發見シタル煤煙ハ漸次接近シテ二橋三煙突ナルヲ知り、或ハ其ノ敵艦ナランヲ慮リ、北方ニ變針シ、速力ヲ加減シテ之ト觸接ヲ保持セリ、然ルニ六時過ニ至リ該艦ハ北東方ニ急航セルモノ、如ク距離一旦遠隔セシカ、幾何モナク再近ツキ來リ、其ノ艦型「オレーグ」ニ類似シ、我カ勢力到底敵ニ如カサルヲ以テ、之ヲ北西

ニ避ケツ、^{（北緯三十六度五十分）}「オレグ」ト思ハル、モノ一隻八〇六地點^{（東經百三十度三十分）}ヲ北航スル旨ヲ發電シ、九時三十分竹邊灣ノ東方約十二海里ニ達シ、形勢ヲ窺ハントセシニ、敵ハ艦首ヲ我ニ向ケ急航シ來ルカ如ク、且其ノ後方ニ更ニ二隻ノ軍艦ヲ認メシニ依リ、全速力ヲ以テ南南西ニ退避セリ、已ニシテ後方ノ二艦ハ我カ音羽、新高ニシテ、前方ノモノハ敵艦「スウェトラーナ」ナルヲ知リシカ、此ノ時東方ニ當リ更ニ二小艦ノ南西ニ向フヲ發見シタルヲ以テ之ニ向ヒシニ、近ツクニ及ヒ其ノ我カ驅逐艦ノ敵砲艦ヲ捕獲セルモノナルカ如キヲ知リ、^{（實際ハ諸威ノ捕獲艦二隻ナリキ）}十時四十五分再北方ニ反航シ、音羽、新高ノ方ニ向進シ、「スウェトラーナ」ヲ沈没スルニ及ヒ、其ノ乗員准士官以上十八名、下士卒三百七十三名^{（内前日來ノ戰闘負傷者准士官以上二十一名）}ヲ救助收容シ、午後四時四十分佐世保ニ向ヒ航進中、午後六時三十分驅逐艦叢雲追跡シ來リ、其ノ依頼ニ依リ敵驅逐艦「ブイスツルイ」ヲ俘虜一名ヲ收容シ、前進ヲ繼續セリ、水雷母艦熊野丸ハ、二十八日午前二時東郷聯合艦隊司令長官ノ電報ヲ大河内望樓ニ傳ヘ、再鬱陵島ニ向ヒテ前進シ、午前七時我カ音羽、新高ノ敵ヲ追撃シツ、竹邊灣ノ方面ニ向フヲ認メ、午後一時鬱陵島ニ達シ、望樓ニ就キテ情報ヲ求メシニ、艦隊ハ南下セシモノ、如シ、トノ報ヲ得、嚴島ニ向ヒ爾後行動ノ指令ヲ請ヒシニ、竹島ニ來レ、トノ命アリシニ依リ、直ニ之ニ向ヒ午後四時三十分頃我カ主力艦隊ニ合セリ、然ルニ同四十五分、片岡第三艦隊司令長官ヨリ、直ニ尾崎ニ歸レ、トノ命ヲ受ケ、同六時艦隊ト分レ歸航ノ途ニ就ケリ、水雷母艦春日丸ハ、母艦任務ヲ行フ爲メ、前日來蔚山港外ニ警泊セシカ、二十八日未明ヨリ

驅逐艦、水雷艇陸續トシテ入港シ來リ、港外ニ於テハ波浪大ナル爲メ、艦艇ノ横著危險ナルヲ以テ、午前六時錨地ヲ港内ニ移シ、望樓ト通信連絡ノ爲メ、陸上ニ信號中繼所ヲ設ケ、運送船芝罘丸ト共ニ驅逐艦、水雷艇ノ兵器炭水ノ補給、損處ノ應急修理、並ニ負傷者ノ收容等ヲ行ヒ、且情報ヲ此等ノ諸艦艇ニ傳ヘタリ、乃チ此ノ日春日丸及ヒ芝罘丸ニ於テ、兵器需品ヲ供給シタルモノハ、驅逐艦五隻^{（陽炎、朝霧、雲雀、鎮西、鷗、千鳥、第六十二）}、水雷艇九隻^{（雲雀、鎮西、鷗、千鳥、第六十二、第六十三、第六十五號艇）}ニシテ、應急修理ヲ施シタルモノハ、朝潮、曙電、雲雀、第六十三號艇ノ五隻ナリキ、

第四章 戰闘後紀

第一節 捕獲艦ノ回航

露國艦隊ハ、五月二十七日ヨリ二十八日ニ至ル戰闘ニ於テ全然潰敗シ、其ノ主力ノ大部ハ或ハ沈ミ或ハ降リシモ、尙動靜不明ノモノ尠カラス、即チ二十八日夕刻迄ニ、東郷聯合艦隊司令長官ノ聞見セル敵艦隊損害ノ狀況大要左ノ如シ、

沈没軍艦

司令長官旗艦戰艦「クニヤージ」、スウオーロフ、戰艦「アレクサンドル」三世、戰艦「ボロヂノ」、司令官旗艦戰艦「オスラービヤ」^{（確實ナ）}、巡洋艦「ジエムチウグ」^{（オスラービヤ）}ノ沈没、^{（ヲ誤認シタルモノナリ）}假裝巡洋艦「ウラール」、工作船「カムチャツカ」、驅逐艦一隻

捕獲軍艦

司令官旗艦戰艦「ニコライ」二世、戰艦「アリヨール」、海防艦「ダネラル」、アドミ